

環 境 に 関 す る 県 民 意 識 調 査
報 告 書

令 和 7 年 度
石 川 県

目 次

§ 1 調査の概要

この報告書のみかた	2
1 調査の目的	3
2 調査の項目	3
3 調査の設計	3
4 標本構成	3
5 回収結果	4
6 回答者の属性	5

§ 2 調査結果

1) 関心のある環境課題	7
2) 環境に関する満足度	9
3) 日常生活で実行している行動	11
4) 日常生活の中で感じていること.....	12
5) 地球温暖化について	13
6) 循環型社会の構築について.....	28
7) 里山里海の利用保全について.....	30
8) 環境問題に関する自由意見	33

§ 3 調査票	34
---------------	----

§ 1 調査の概要

この報告書のみかた

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象者数)に対する百分比(%)を表している。1人の対象に2つ以上の回答を求める設問では、百分比(%)の合計は100%を超える。
- (2) 百分比(%)は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比(%)は、すべて各分類項目ごとの該当対象者数を100%として算出した。
- (4) 本文中の結果の数値は、小数第1位までを%で表示したが、他の数値との比較で大小関係を示す場合は、整数値で「…ポイントの差」という表現をとった。

1. 調査の目的

この調査は、環境についての県民の意識を把握し、「石川県環境総合計画」を改定するための基礎資料とすることを目的とする。なお、一部の設問において令和元年に実施した「環境に関する県民意識調査」の調査結果との比較を行った。

2. 調査の項目

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1) 関心のある環境課題 | 5) 地球温暖化対策 |
| 2) 環境に関する満足度 | 6) 循環型社会の構築 |
| 3) 日常生活で実行している行動 | 7) 里山里海の利用保全 |
| 4) 日常生活の中で感じていること | 8) 環境問題に関する自由意見 |

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：石川県全域
- (2) 調査対象：石川県に居住する満18歳以上の男女
- (3) 標本数：2,000人
- (4) 抽出方法：層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法：郵送法（配布：郵送、回収：郵送またはインターネット回答）
- (6) 抽出台帳：住民基本台帳
- (7) 調査時期：令和7年9月18日～令和7年10月10日

4. 標本構成

(1) 層化区分

○地域

各地域の市町は、首都圏など大都市圏と異なり、人口的に大きな差がないため、市郡規模での層化は行わず、市町を第一層、各市町内の町を第二層として層化抽出を行った。

(2) 抽出の方法

- a) 第1次抽出単位となる調査地点として、現行市町を使用した。
- b) 調査地点の抽出数については、1調査地点あたりの標本数が6程度になるように、標本数より算出し、決定した。
- c) 調査地点の抽出は、層内での抽出地点数が2地点以上割り当てられた層については、等間隔（層内の該当調査区の人口数合計を調査地点数で除すことにより算出）抽出法によって行った。
- d) 各調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・街区・番地等を指定）より、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。

(3) 標本数の配分

各地域、市町規模の層における指定母集団数（令和5年10月1日現在の満18歳以上の人口数）より、2,000の標本を比例配分した。

区分	市町	抽出地点数	抽出数
能登北部	輪島市	8	48
	珠洲市	4	24
	穴水町	3	18
	能登町	5	30
能登中部	七尾市	15	90
	羽咋市	6	36
	志賀町	6	36
	宝達志水町	4	24
	中能登町	5	30
石川中央	金沢市	133	794
	かほく市	10	60
	白山市	33	198
	野々市市	16	96
	津幡町	11	66
	内灘町	8	48
加賀南部	小松市	31	186
	加賀市	20	120
	能美市	14	84
	川北町	2	12
計		334	2,000

5. 回収結果

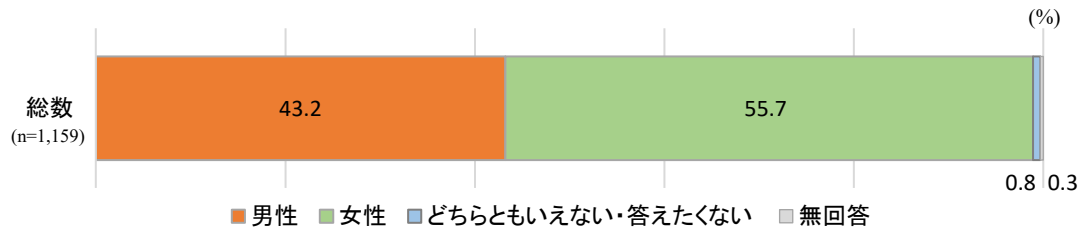
有効回収数は1,159票（58.0％）であった。地域区分別の回収数（率）は次の通り。

区分	対象数	有効回収数（率）
能登北部	120	64（53.3％）
能登中部	216	122（56.5％）
石川中央	1,262	737（58.4％）
加賀南部	402	231（57.5％）
無回答		5（－）
計	2,000	1,159（58.0％）

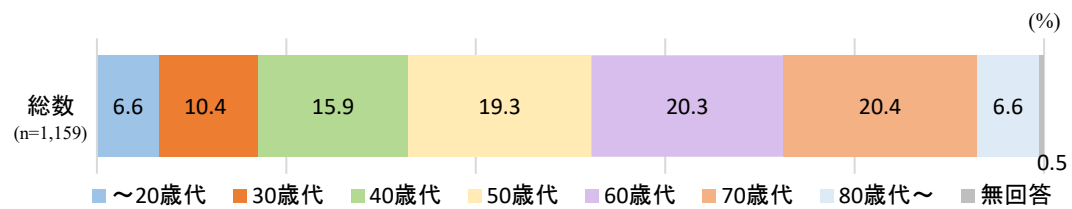
6. 回答者の属性

本調査の回答者（有効回収標本）1,159人の基本属性は次の通りである。

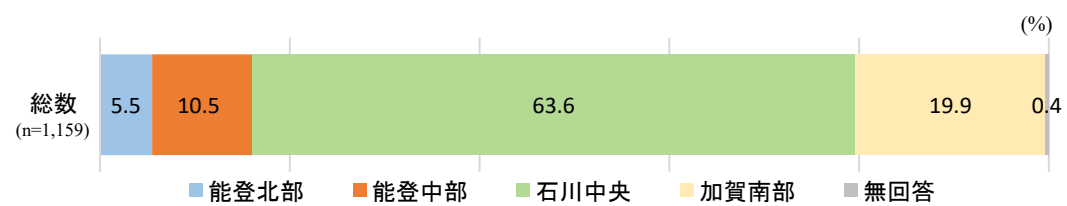
（１）性 別



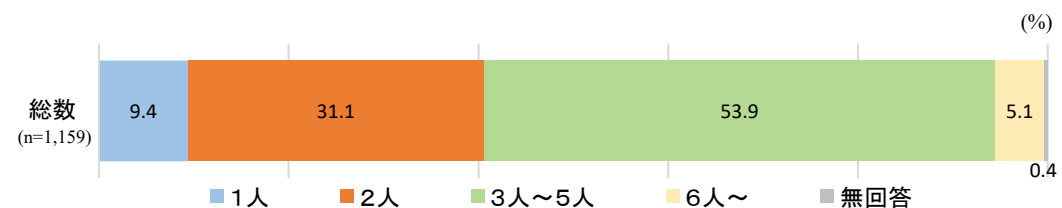
（２）年 齢



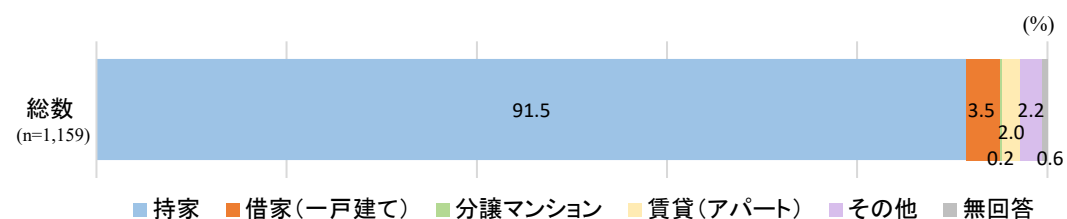
（３）居住地



（４）世帯人数



（５）住居形態

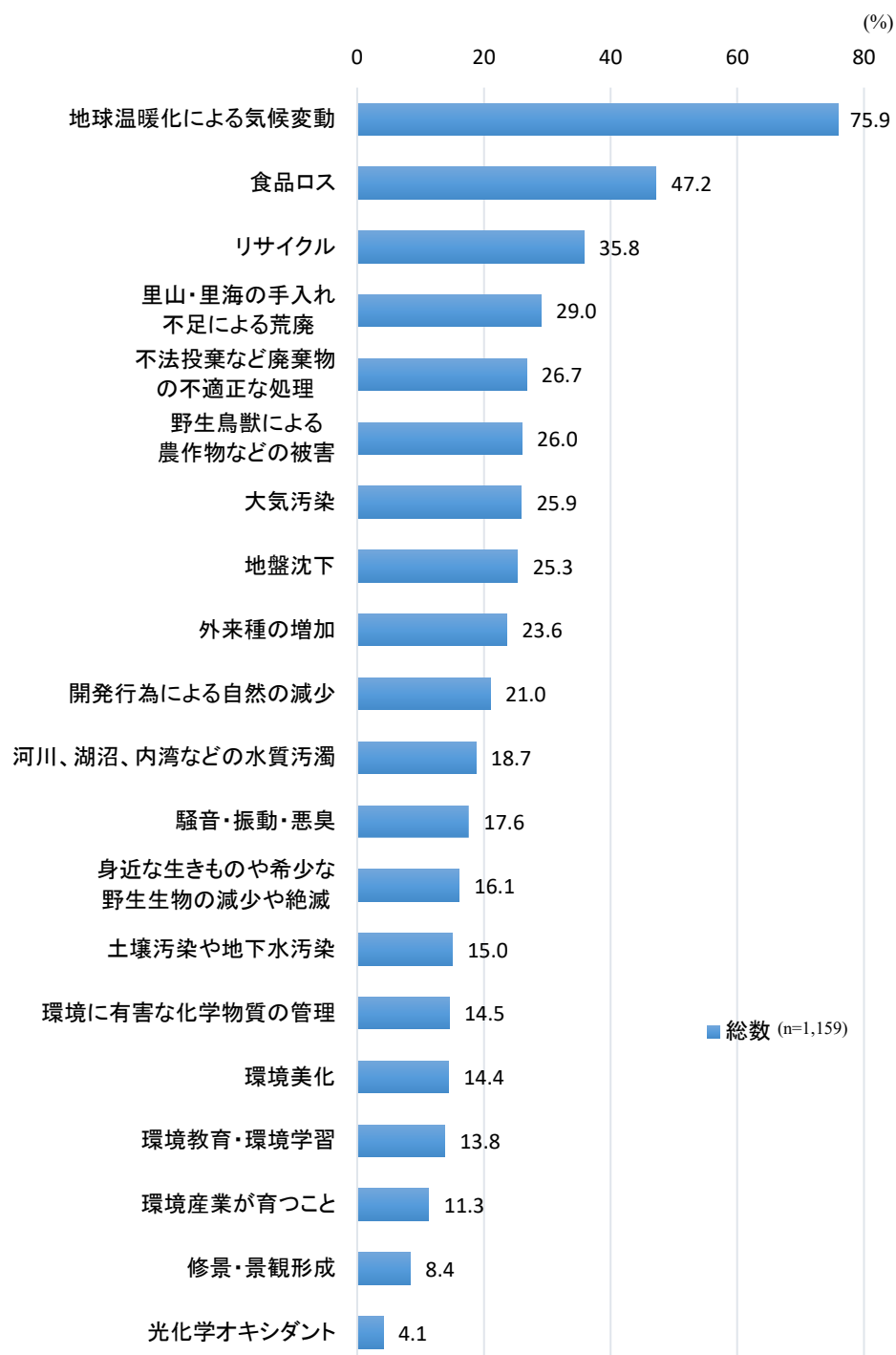


§ 2 調查結果

1) 関心のある環境課題

問2 次の環境課題について、あなたが関心のあるものを選んでください。（複数回答）

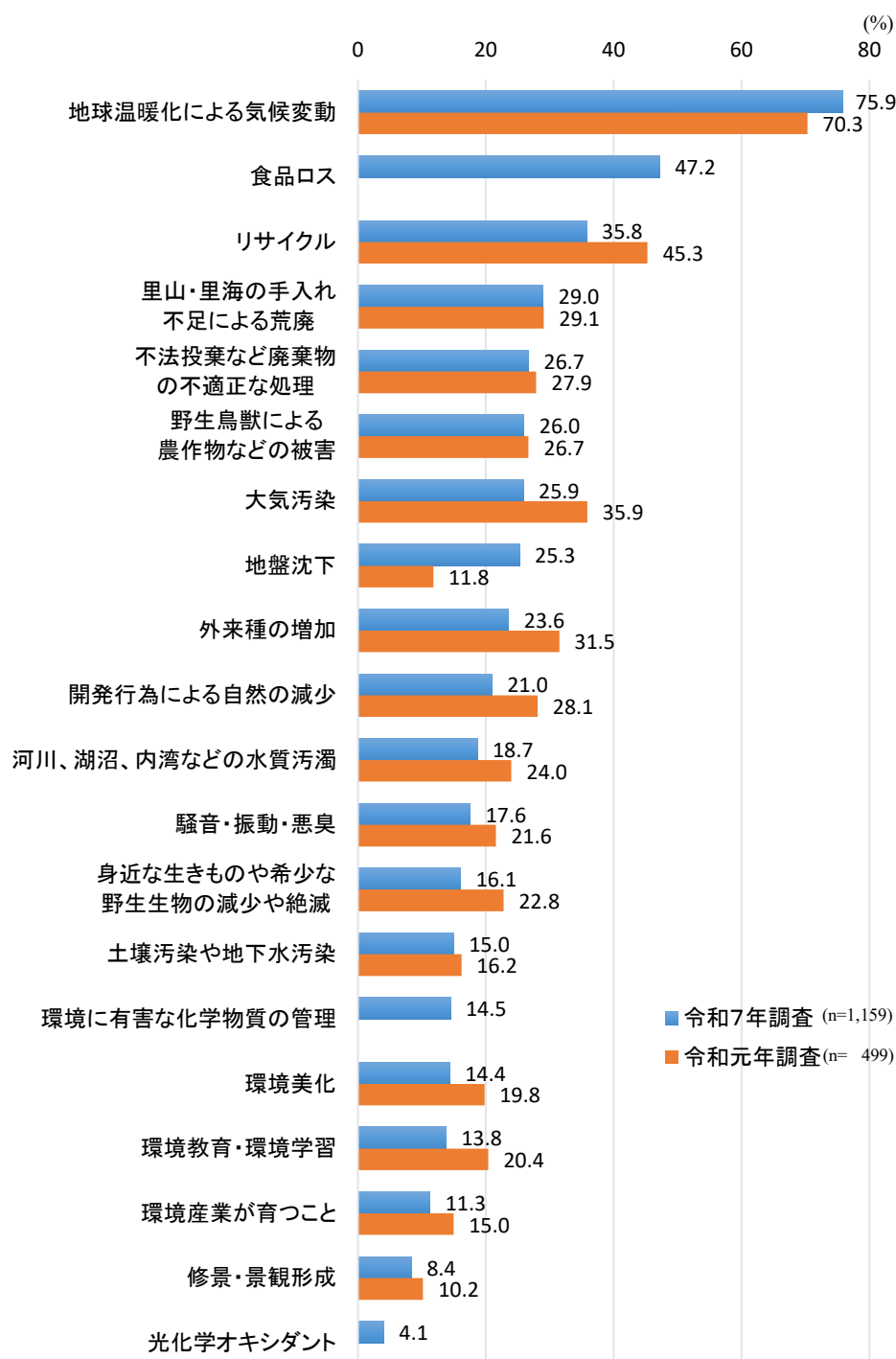
「地球温暖化による気候変動」75.9%が最も高く、「食品ロス」47.2%、「リサイクル」35.8%、「里山・里海の手入れ不足による荒廃」29.0%、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理」26.7%が続く。



1) 関心のある環境課題（経年比較）

前回調査（令和元年）と比較すると、「地球温暖化による気候変動」が最も高いことは変わらず、上位順位に大きな変動はない。「地球温暖化による気候変動」と「地盤沈下」は、前回調査を上回っているが、それら以外は前回調査を下回っている。

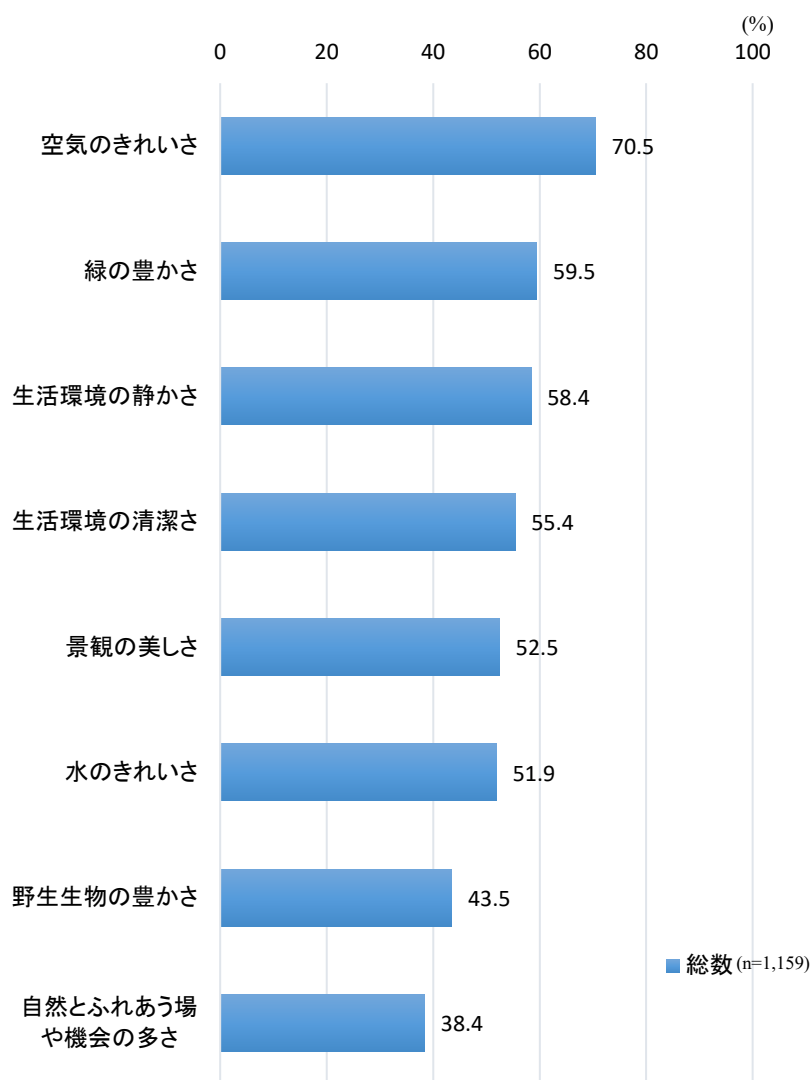
注）「食品ロス」「環境に有害な化学物質の管理」「光化学オキシダント」は令和7年調査で初出。「PM2.5、酸性雨などの越境汚染」は令和7年調査で選択肢から除外



2) 環境に関する満足度

問3 あなたは、自分が住んでいるまちの環境についてどの程度満足していますか。あなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

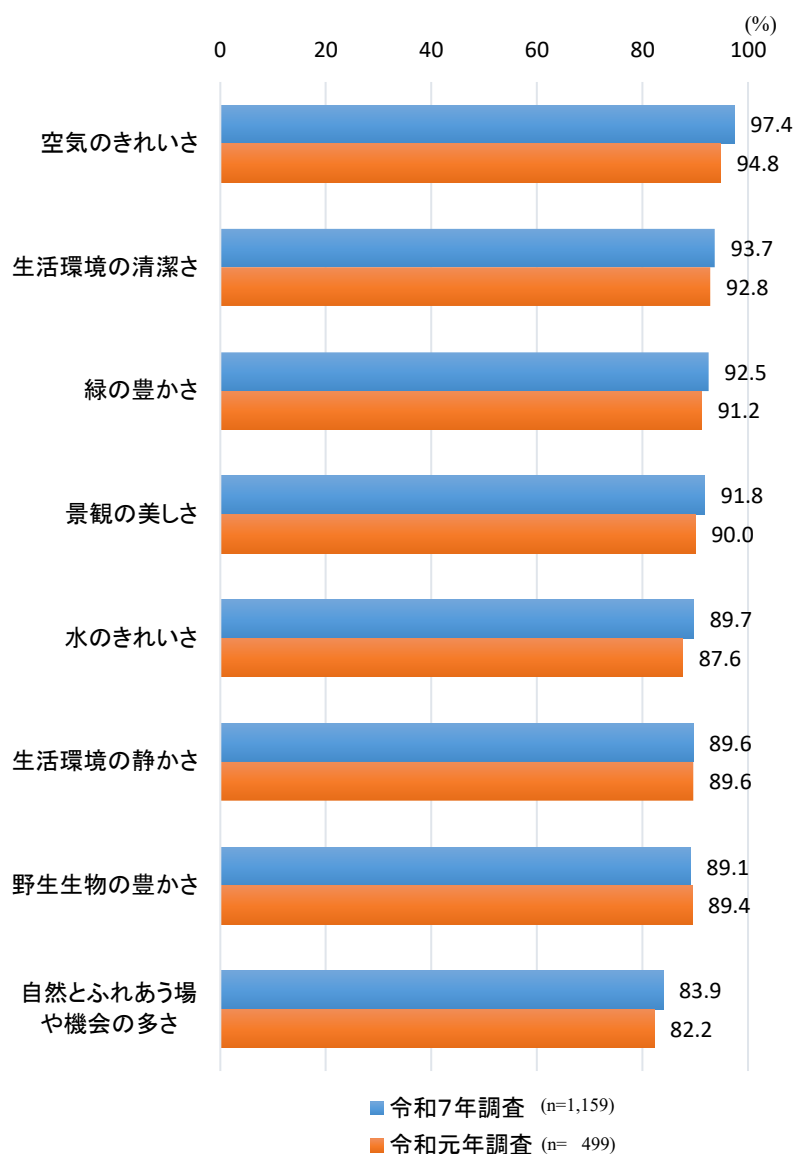
満足度（「満足」「どちらかといえば満足」の計）は、「空気のきれいさ」が70.5%と最も高く、「緑の豊かさ」59.5%、「生活環境の静かさ」58.4%、「生活環境の清潔さ」55.4%、「景観の美しさ」52.5%が続く。



2) 環境に関する満足度（経年比較）

前回調査（令和元年）と比較して、各項目ごとの差は小さく、順位もほぼ同様となっている。

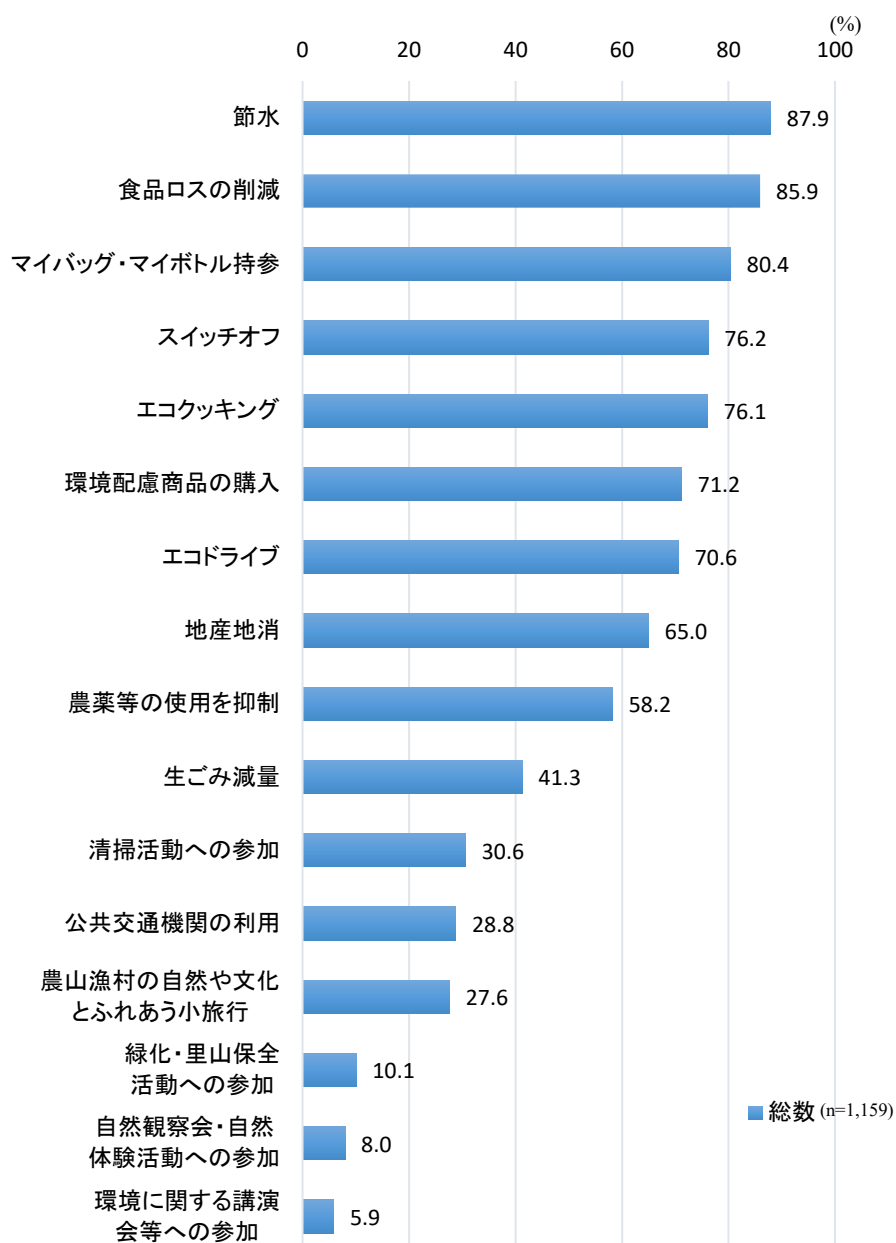
注）前回調査と比較するため、「満足」「どちらかといえば満足」に「まあまあ」を加えた値で比較



3) 日常生活で実行している行動

問4 あなた自身、あるいはあなたのご家庭における日常生活の中で、環境を守ることにつながる次の行動をどの程度実行していますか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

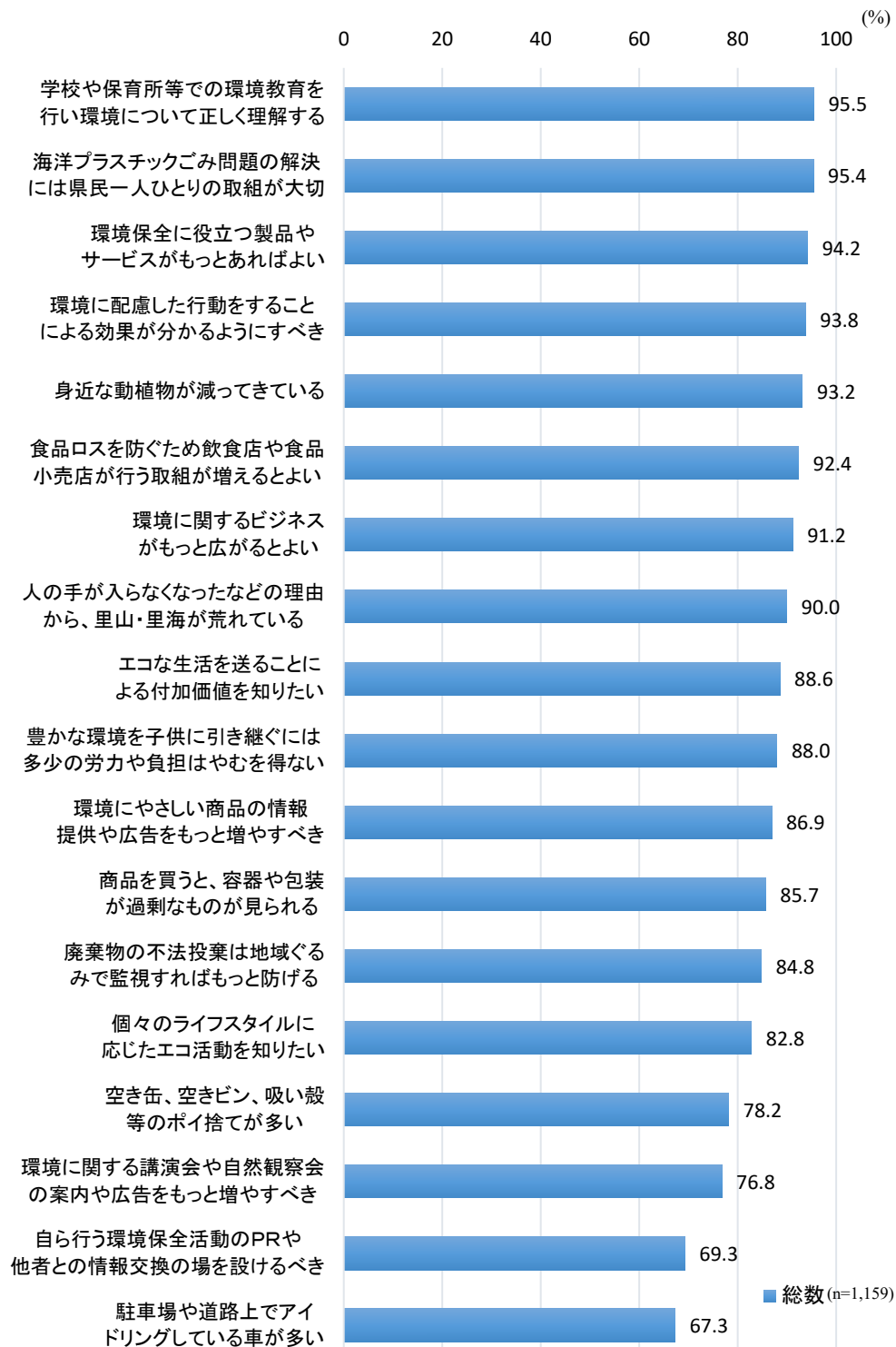
実行している（「いつも実行している」「ときどき実行している」の計）割合は、「節水」が87.9%と最も高く、「食品ロスの削減」85.9%、「マイバッグ・マイボトル持参」80.4%、「スイッチオフ」76.2%、「エコクッキング」76.1%が続く。



4) 日常生活の中で感じていること

問5 あなたは、ふだんの生活のなかで次のことをどのように思っていますか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

そう思う（「そう思う」「少しそう思う」の計）割合は、「学校や保育所等での環境教育を行い環境について正しく理解する」が95.5%と最も高く、「海洋プラスチックごみ問題の解決には県民一人ひとりの取組が大切」95.4%、「環境保全に役立つ製品やサービスがもっとあればよい」94.2%、「環境に配慮した行動をすることによる効果が分かるようにすべき」93.8%、「身近な動植物が減ってきている」93.2%が続いている。

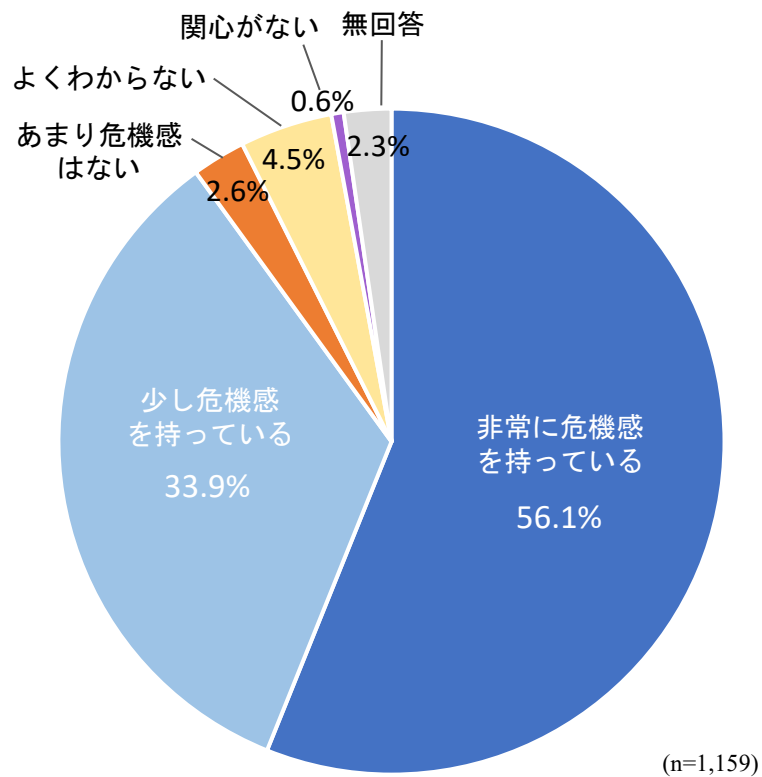


5) 地球温暖化について

(1) 地球温暖化について感じる事

問 6 (1) 地球温暖化について、あなたはどのように思われますか。

「非常に危機感を持っている」56.1%、「少し危機感を持っている」33.9%と、全体の9割が「危機感を持っている」と回答。

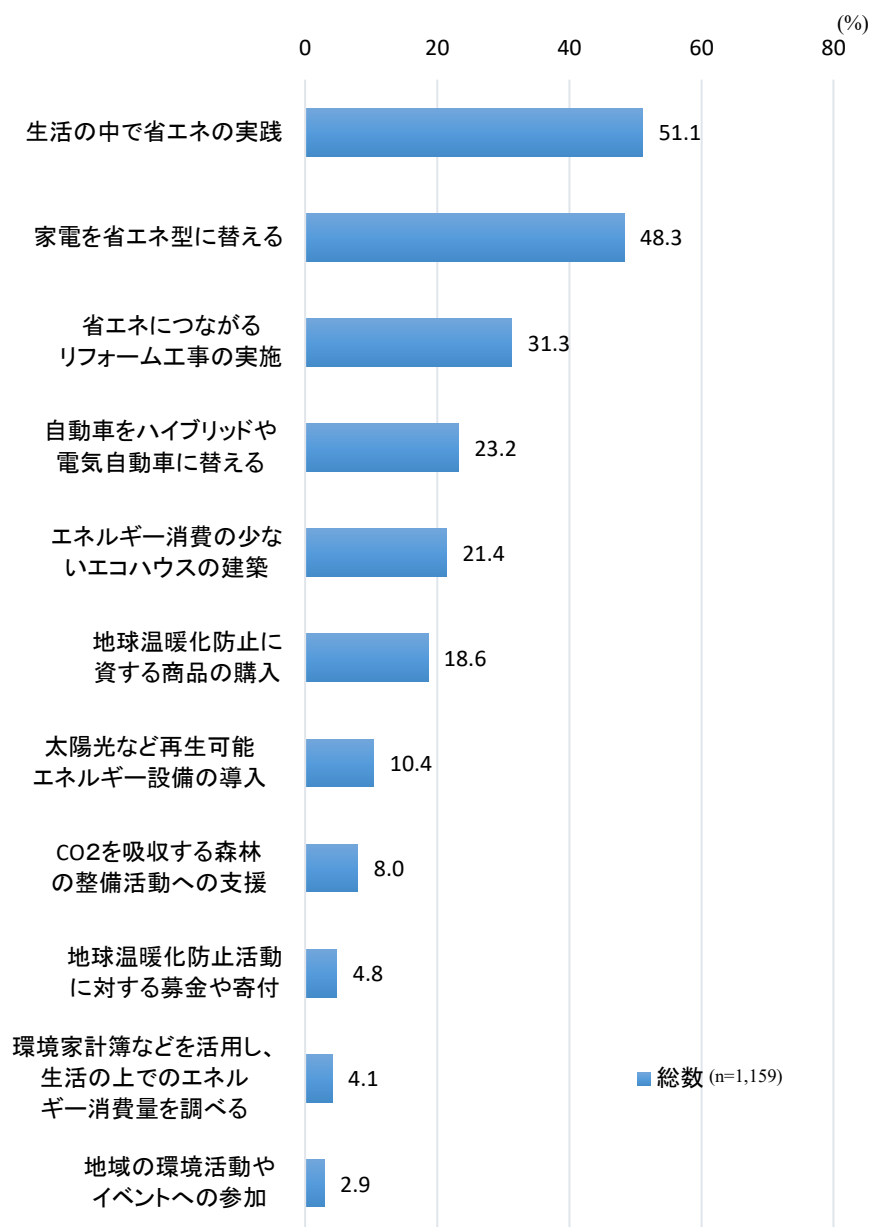


5) 地球温暖化について

(2) 取り組んでいる地球温暖化対策

(2) 地球温暖化対策について、取り組んでいることは何ですか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

「生活の中で省エネの実践」51.1%、「家電を省エネ型に替える」48.3%、「省エネにつながるリフォーム工事の実施」31.3%など、“自身の生活の中での取り組み”が上位にあがっている。

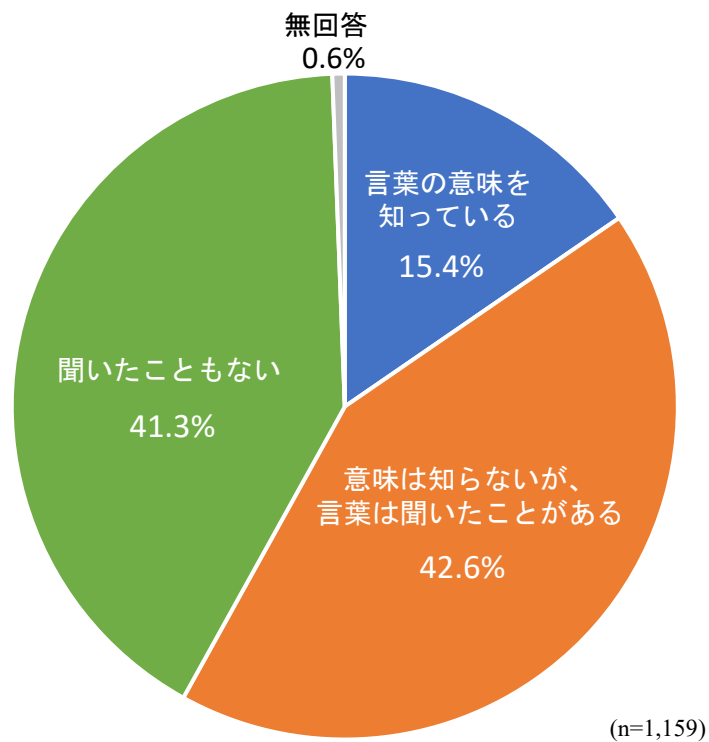


5) 地球温暖化について

(3) 「気候変動適応」認知状況

(3) あなたは「気候変動適応」という言葉の意味を知っていますか。

「言葉の意味を知っている」15.4%、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」42.6%を合わせ、『気候変動適応』認知者は全体の58.0%となっている。

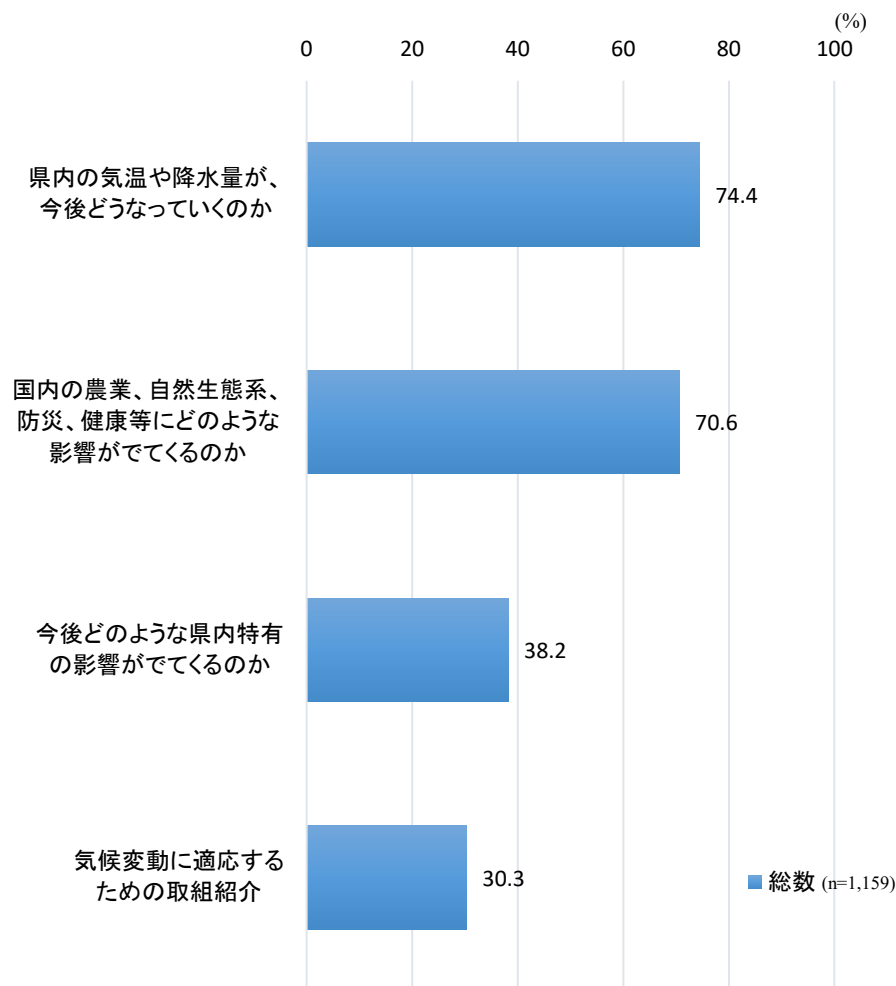


5) 地球温暖化について

(4) 関心のある情報

(4) 次の気候変動の影響や適応に関することについて、あなたが関心のあるものを選んでください。(複数回答)

「県内の気温や降水量が、今後どうなっていくのか」74.4%、「国内の農業、自然生態系、防災、健康等にどのような影響がでてくるのか」70.6%が多くあがっている。

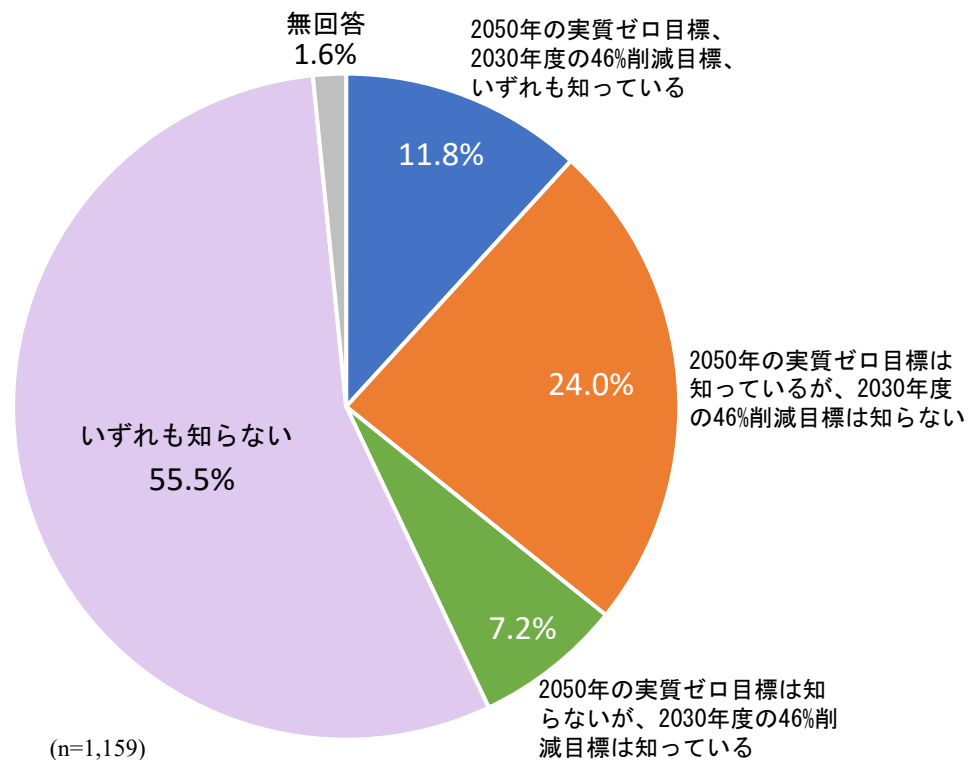


5) 地球温暖化について

(5) 「温室効果ガス削減目標」認知状況

(5) 政府が「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとする目標」を法律に位置付け、通過点として「2030年度に（2013年度と比べ）46%削減するという目標」を掲げていることについてご存じですか。

「2050年の実質ゼロ目標」認知・・・35.8%
「2030年度46%削減目標」認知・・・19.0%
「いずれも知らない」・・・55.5%
となっている。

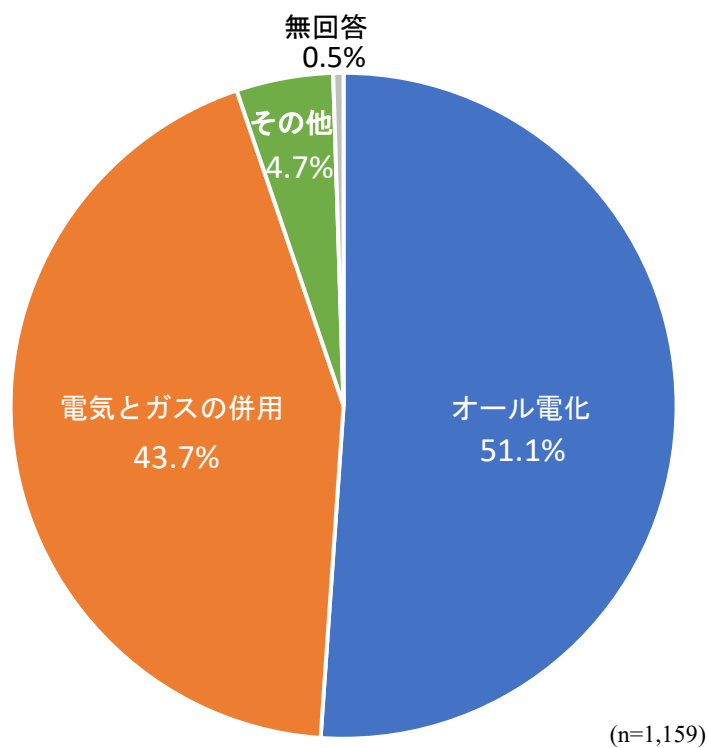


5) 地球温暖化について

(6) 住宅での利用エネルギー

(6) あなたの現在のお住まいは、次のどれですか。

「オール電化」が51.1%と半数を占め、「電気とガスの併用」は43.7%となっている。



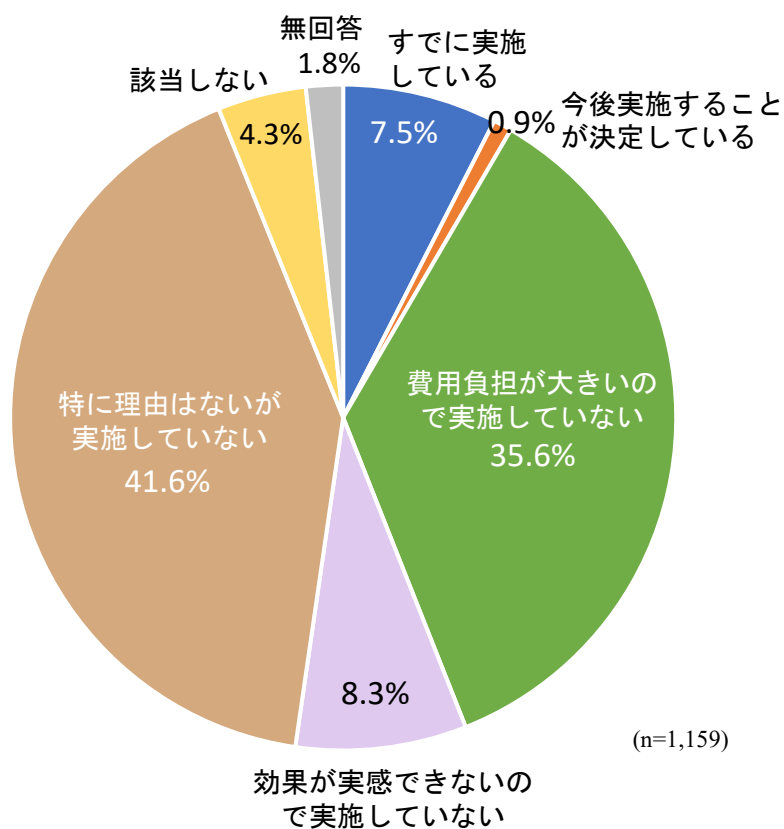
5) 地球温暖化について

(7) 再生可能エネルギー由来電力 利用状況

(7) 再生可能エネルギー由来の電力への切り替えを実施していますか。

「すでに実施している」人は全体の7.5%、「今後実施することが決定している」0.9%をあわせ、全体の8.4%が再生可能エネルギー由来の電力切り替え者（予定含む）となっている。

切り替えを予定していない人の理由は、「費用負担が大きい」ことが多くあがっている。



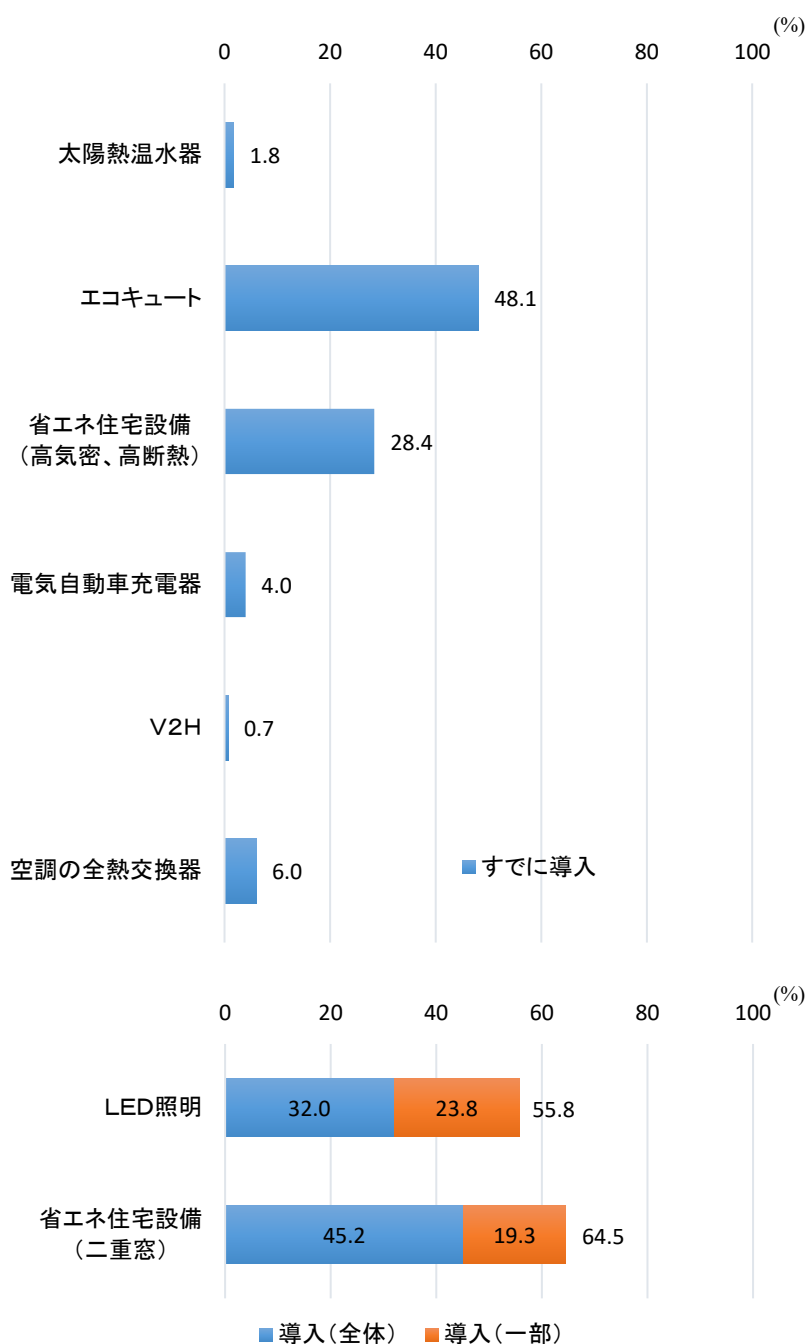
5) 地球温暖化について

(8) 住宅設備 導入状況

(8) あなたの現在のお住まいは、次の設備を導入していますか。

住宅用エネルギー関連設備では、「エコキュート」48.1%、「省エネ住宅設備（高気密、高断熱）」28.4%が上位にあがっている。

住宅の高効率設備では、「省エネ住宅設備（二重窓）」64.5%、「LED照明」55.8%となっている。※一部導入含む



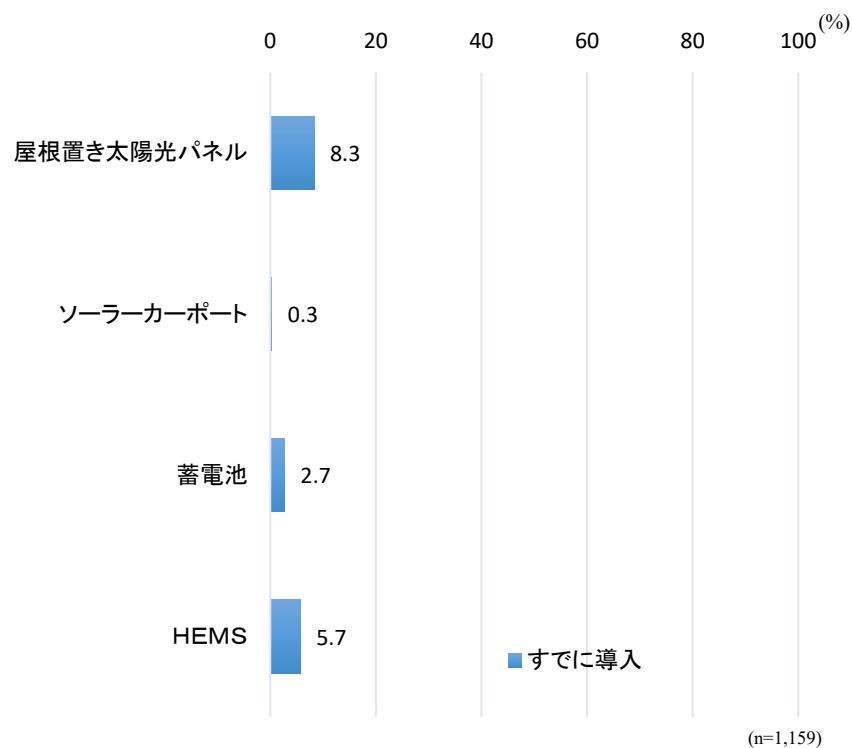
(n=1,159)

5) 地球温暖化について

(9) 太陽光発電システム 導入状況

(9) あなたの現在のお住まいは、以下の太陽光発電システムを導入していますか。

太陽光発電システムで導入しているシステムは、「屋根置き太陽光パネル」8.3%、「HEMS」5.7%が比較的多くあがっている。

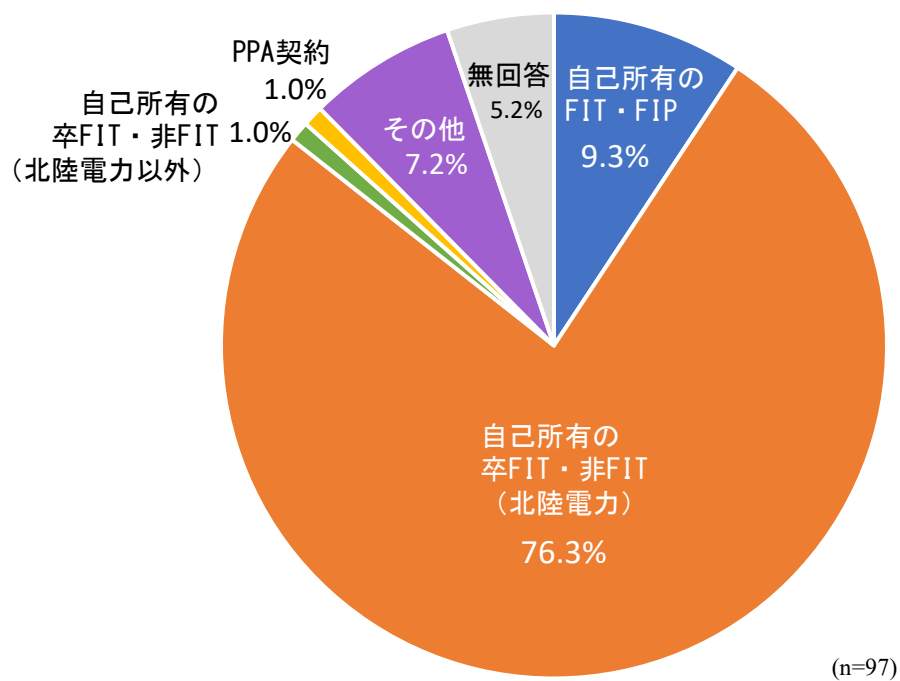


5) 地球温暖化について

(10) 太陽光発電 発電電力の売買契約 ※太陽光発電システム導入者のみ

(10) 発電した電力の売電契約として、最もあてはまるものを1つ選んでください。

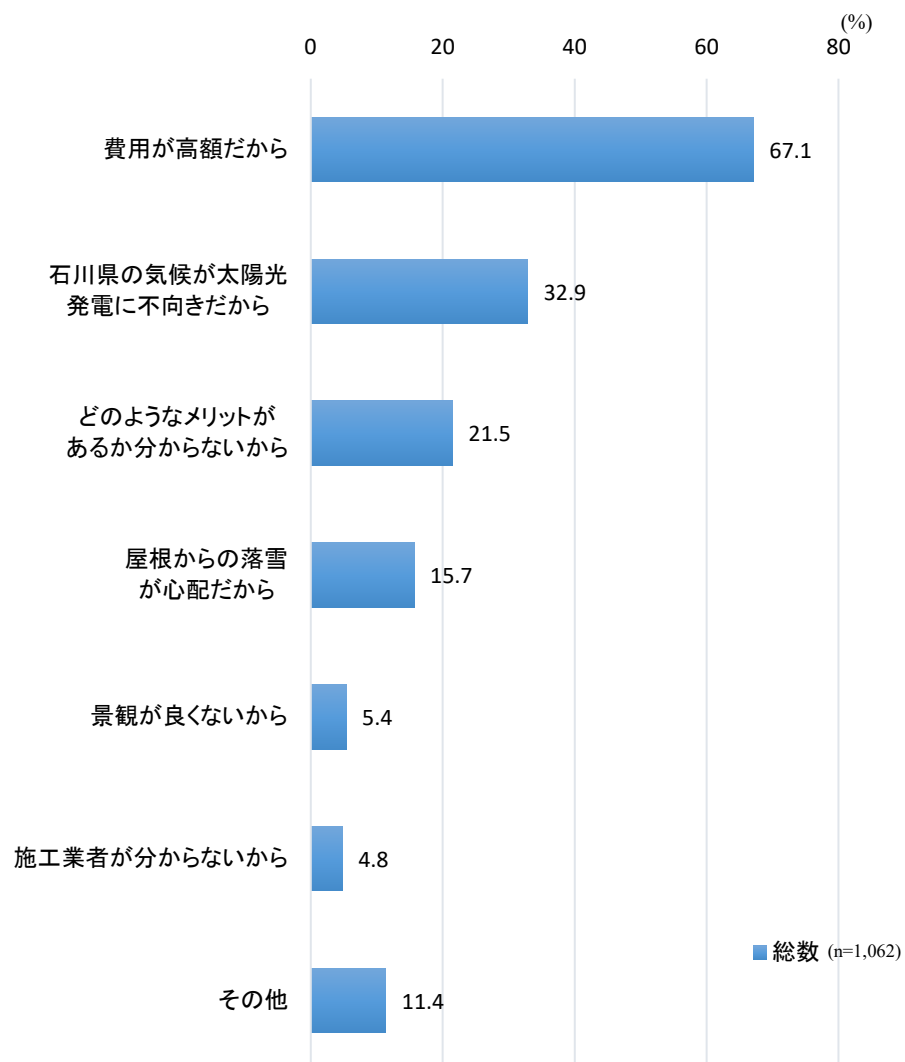
「自己所有の卒FIT・非FIT（北陸電力）」が76.3%と、太陽光発電システム導入者の3/4を占める。



5) 地球温暖化について

(11) 太陽光発電を導入していない理由 (11) 導入していない理由は何ですか。(複数回答)

「費用が高額」が67.1%と最も高く、「石川県の気候が太陽光発電に不向き」32.9%、「どのようなメリットがあるか分からない」21.5%が続く。

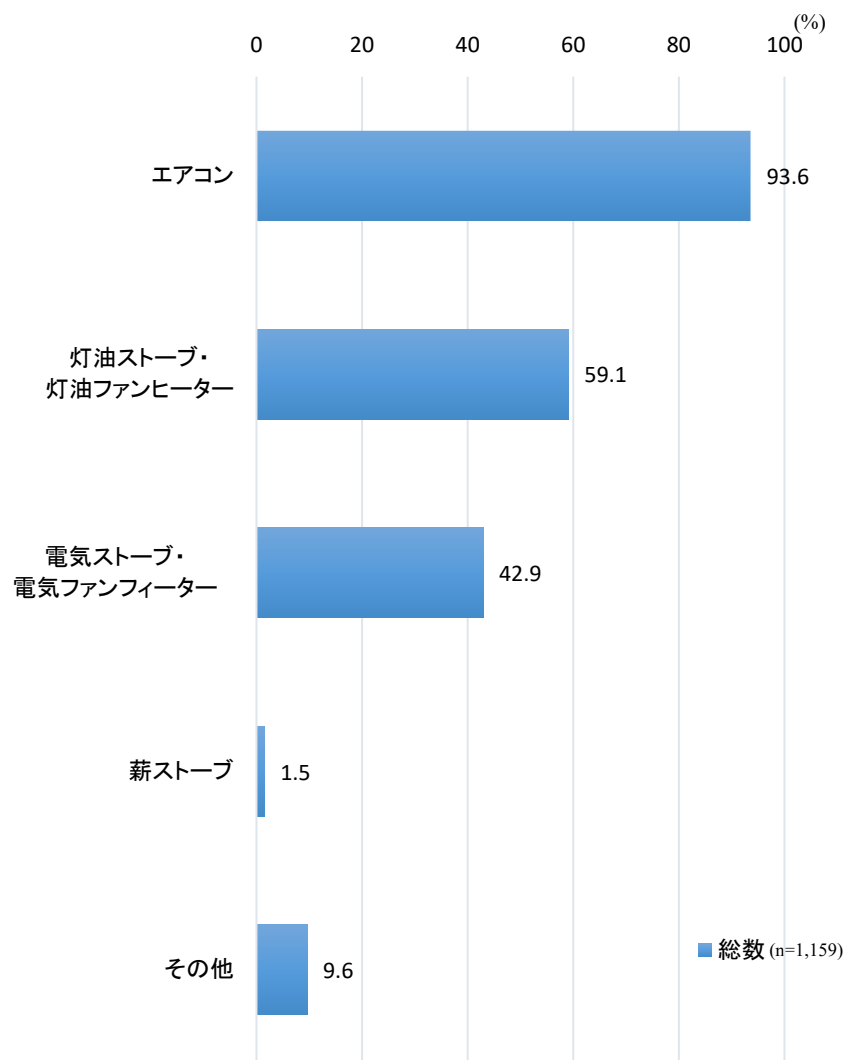


5) 地球温暖化について

(12) 使用暖房機器

(12) ご自宅の暖房機器の種類を教えてください。

「主に利用」と「たまに利用」を合わせた暖房機器使用率は、「エアコン」が93.6%で最も高く、次いで「灯油ストーブ・ファンヒーター」59.1%、「電気ストーブ・ファンヒーター」42.9%の順となっている。



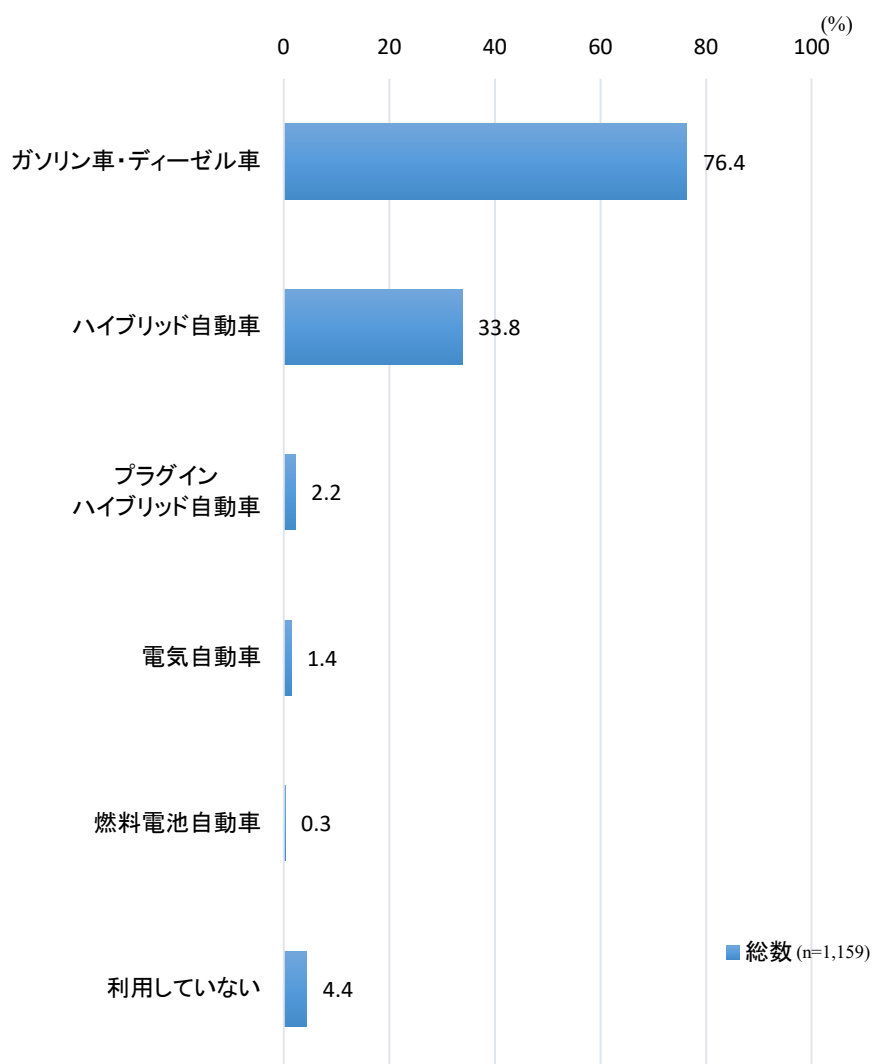
5) 地球温暖化について

(13) 自家用車の車種

(13) あなた及び同居する家族が現在、利用している自家用車の車種は何ですか。(複数回答)

「ガソリン車・ディーゼル車」が76.4%で最も高く、「ハイブリッド自動車」33.8%が続く。

「プラグインハイブリッド自動車」「電気自動車」「燃料電池車」は合わせても5%に満たない。

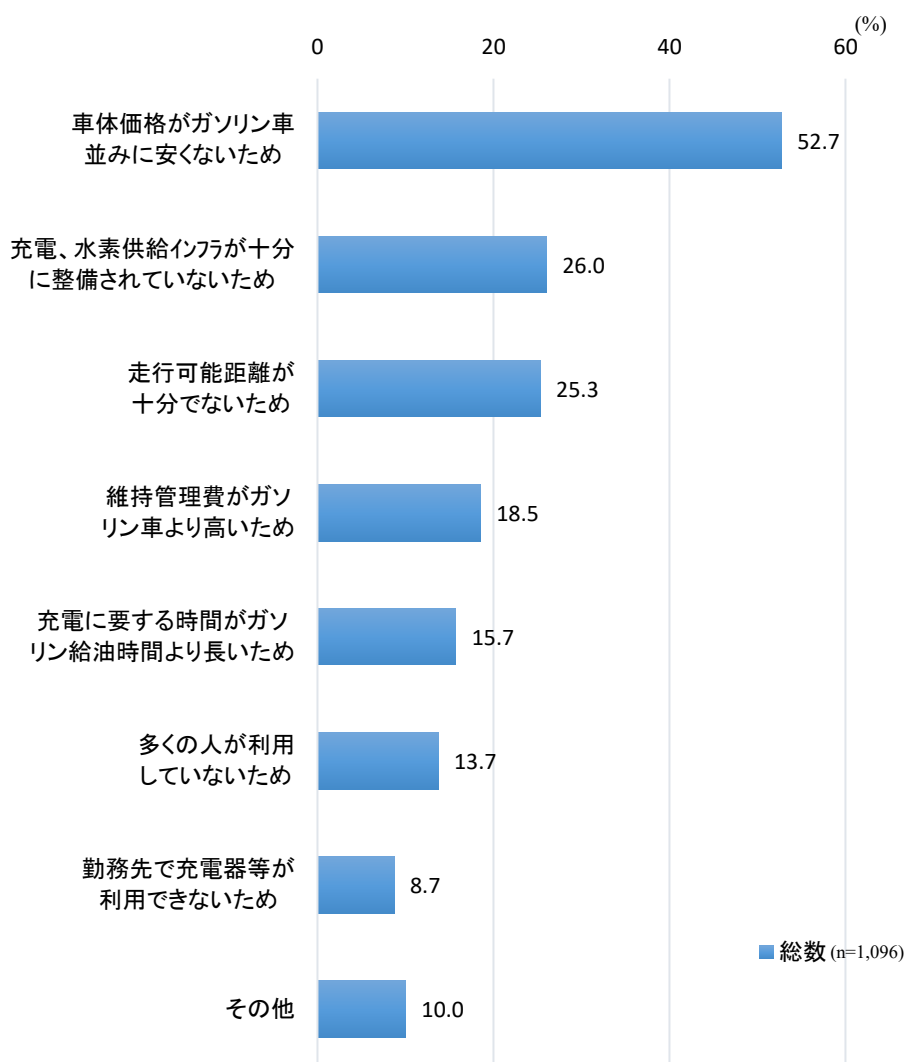


5) 地球温暖化について

(14) EV、PHEV、FCVを利用しない理由

(14) 自家用車をお持ちの方で、「電気自動車」、「プラグインハイブリッド自動車」、「燃料電池自動車」を購入していない理由は何ですか。(複数回答)

利用しない理由として、「車体価格がガソリン車並みに安くない」が52.7%と最も高く、「エネルギー源の供給インフラが十分に整備されていない」26.0%、「走行距離が十分でない」25.3%が続く。

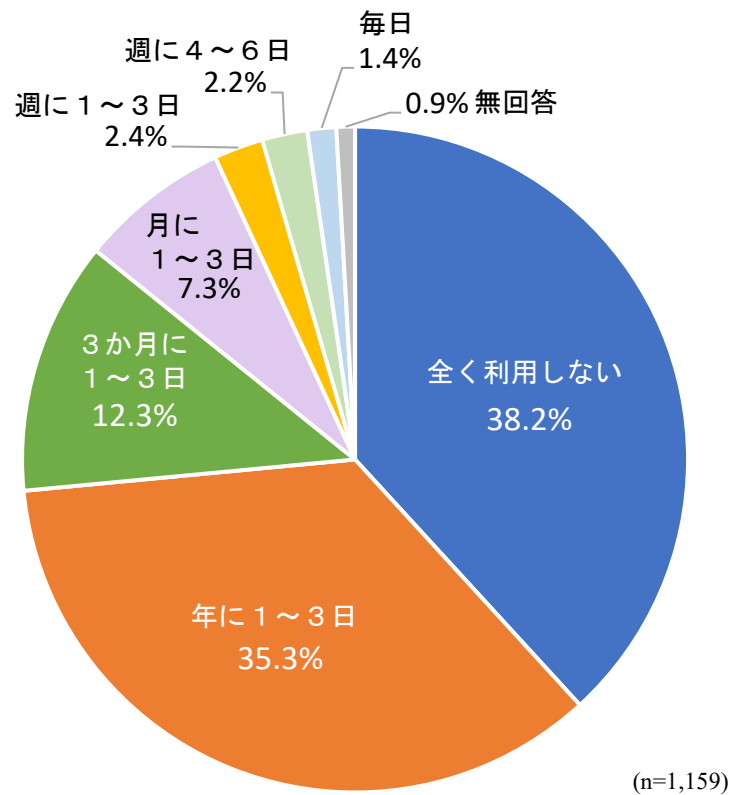


5) 地球温暖化について

(15) 公共交通機関の利用頻度

(15) あなたは、公共交通機関をどの程度の頻度で利用されますか。

「全く利用しない」人は全体の38.2%。「1 か月に 1 回未満」利用者は47.6%、「1 か月に 1 回以上」利用者は13.3%となっている。

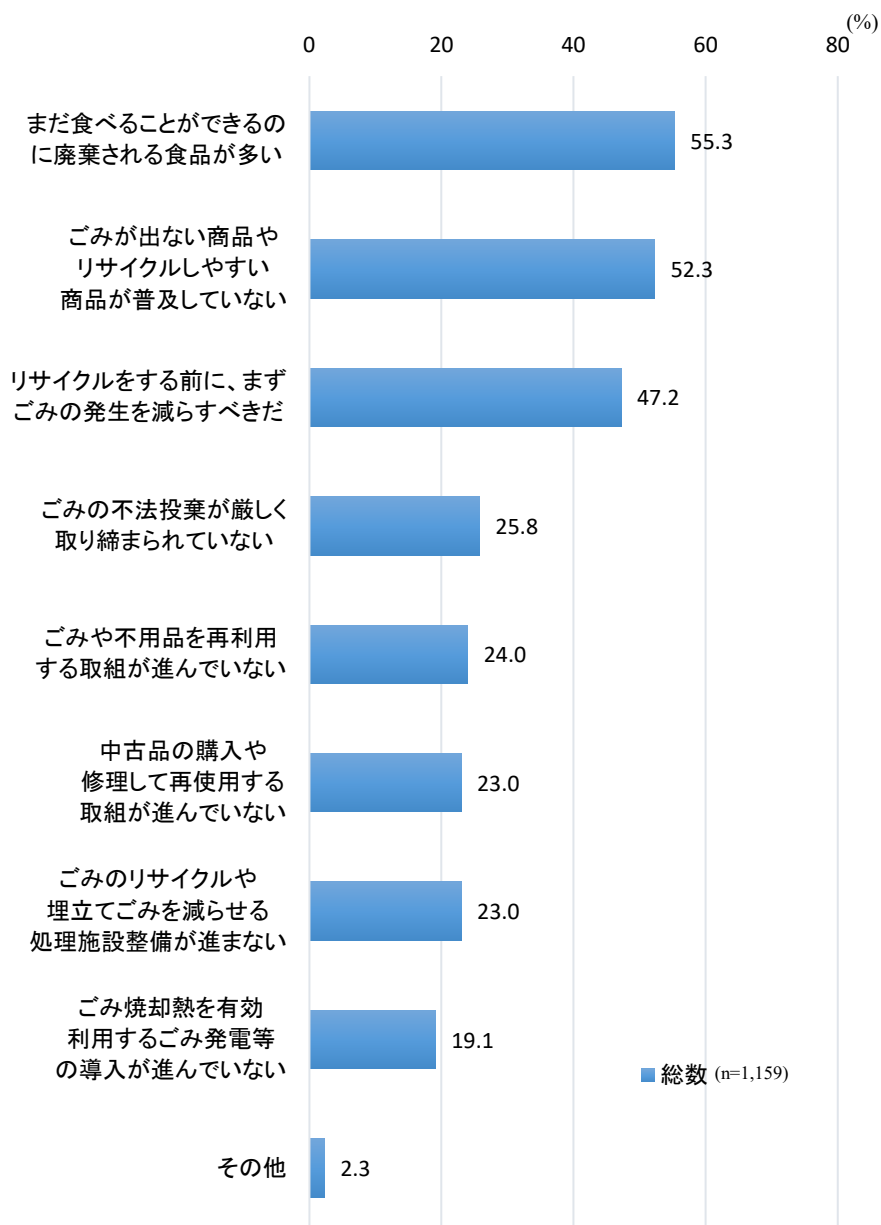


6) 循環型社会の構築について

(1) 現状について感じる事

問7 (1) 県では、ごみを削減・再利用することで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が出来る限り低減される循環型社会の実現を推進していますが、あなたは現状をどのように感じていますか（複数回答）

「まだ食べることができるのに廃棄される食品が多い」55.3%、「ごみが出ない商品やリサイクルしやすい商品が普及していない」52.3%、「リサイクルをする前に、まずごみの発生を減らすべきだ」47.2%が上位にあがっている。

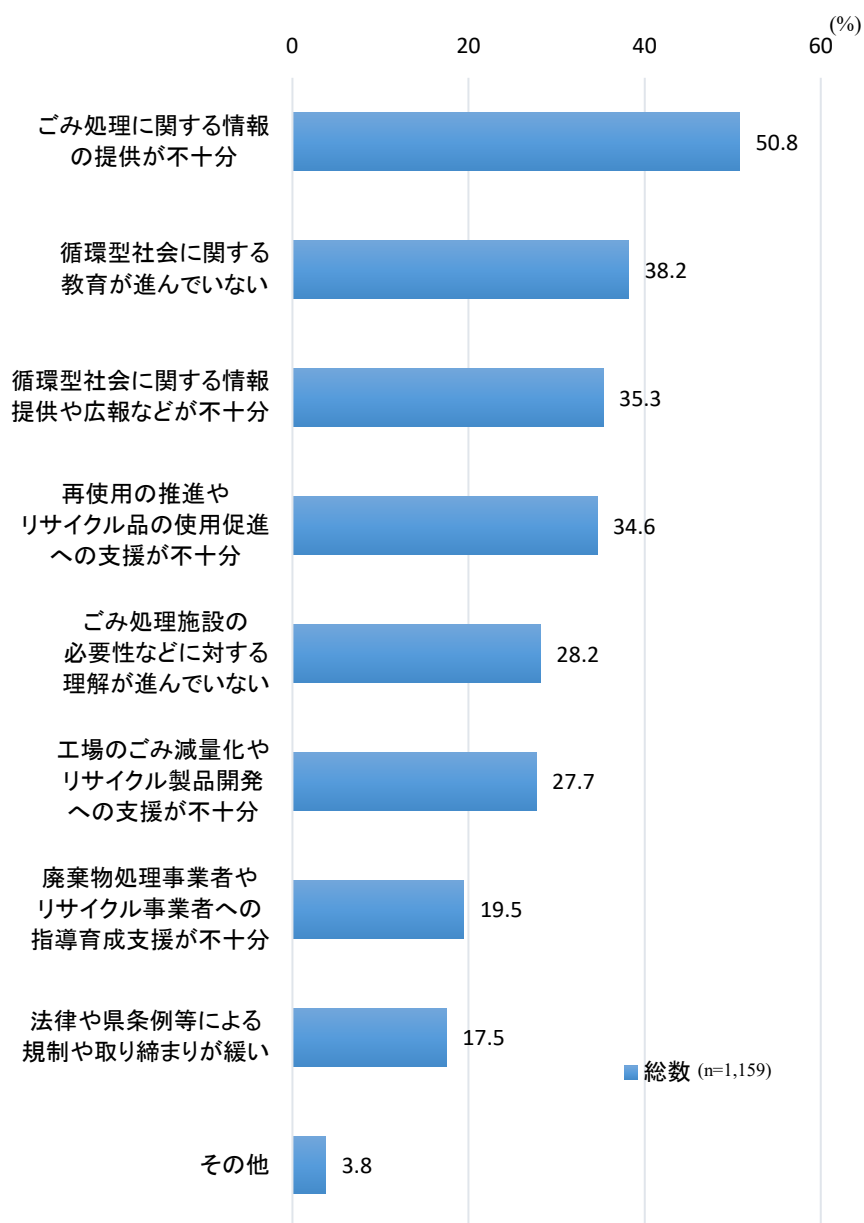


6) 循環型社会の構築について

(2) 不十分と感じる対策

(2) 前問の大きな理由は何だと思いますか。
(複数回答)

「ごみ処理に関する情報の提供が不十分」50.8%が最も高く、「循環型社会に関する教育が進んでいない」38.2%、「循環型社会に関する情報提供や広報などが不十分」35.3%が続き、広報など“情報提供に関する対策”が上位にあがっている。

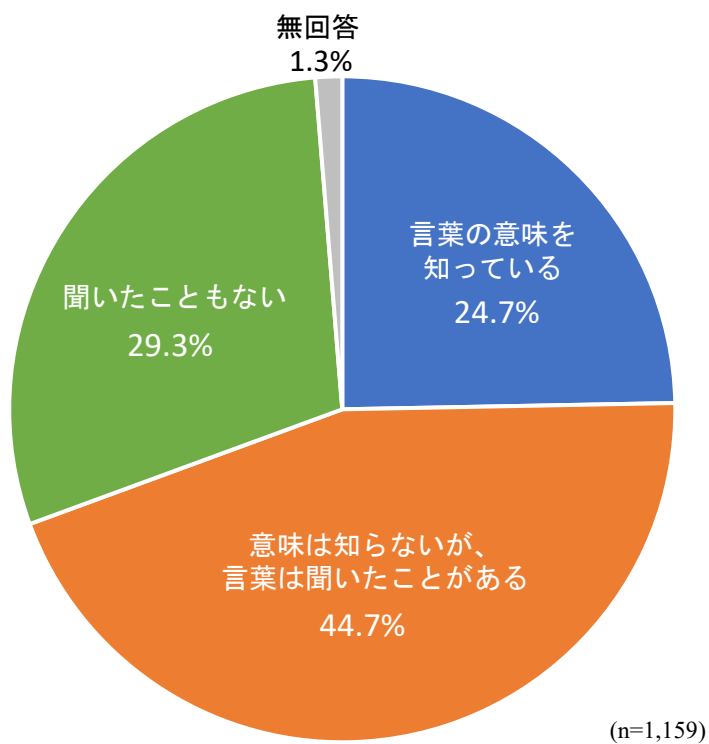


7) 里山里海の利用保全について

(1) 「生物多様性」認知状況

問8(1)「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。

「言葉の意味を知っている」24.7%、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」44.7%を合わせ、『生物多様性』認知者は全体の69.4%となっている。

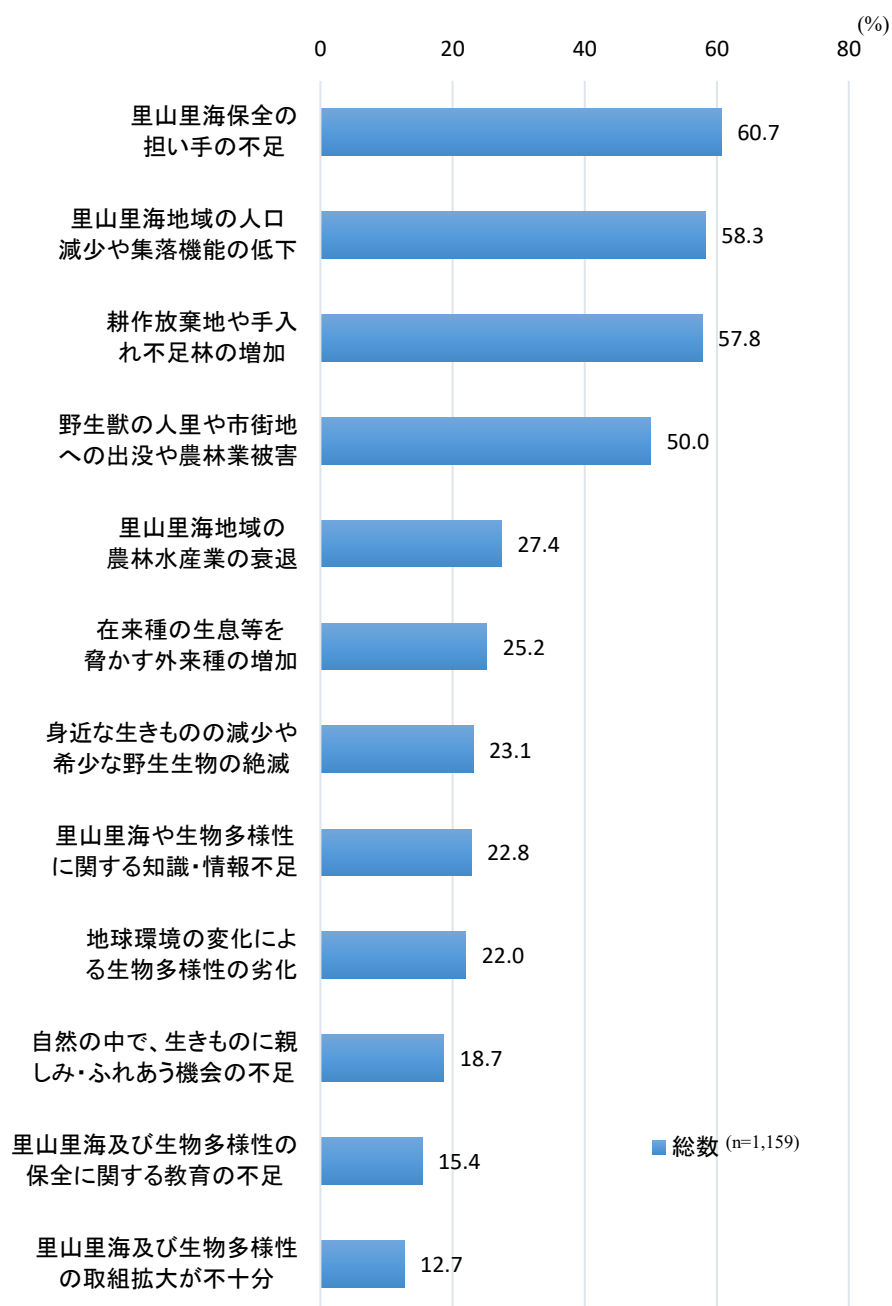


7) 里山里海の利用保全について

(2) 現状の課題や問題点

(2) 里山里海や生物多様性の現状の課題や問題点として、どのようなことがあると考えますか。(複数回答)

「里山里海保全の担い手の不足」60.7%、「里山里海地域の人口減少や集落機能の低下」58.3%、「耕作放棄地や手入れ不足林の増加」57.8%、「野生獣の人里や市街地への出没や農林業被害」50.0%が、それぞれ全体の半数以上を占めている。

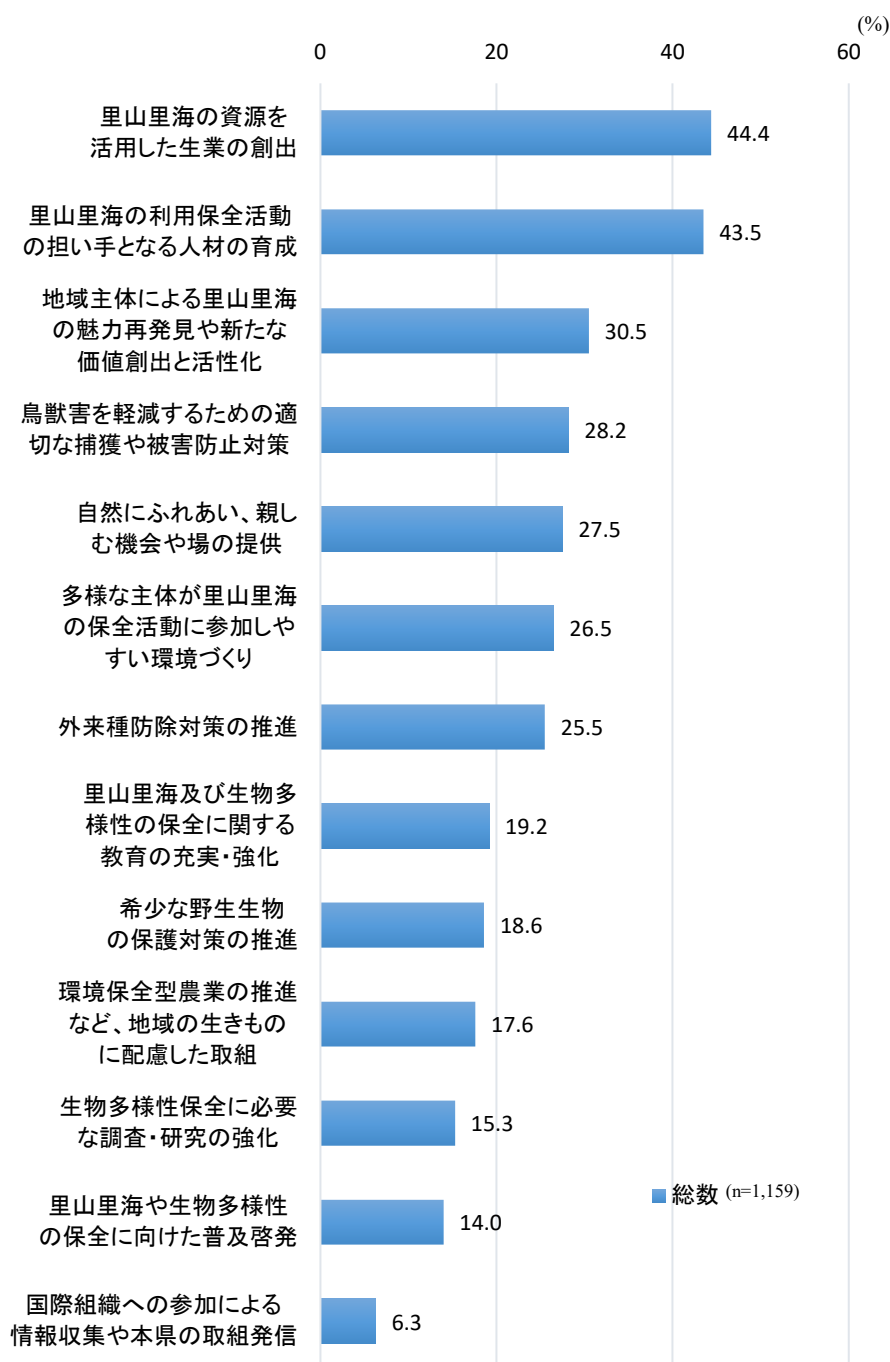


7) 里山里海の利用保全について

(3) 解決のために必要と考えるもの

(3) 課題や問題点の解決のため、今後、どのような対策が必要だと考えますか。(複数回答)

「里山里海の資源を活用した生業の創出」44.4%、里山里海の利用保全活動の担い手となる人材の育成」43.5%が上位にあがり、“里山里海の地域資源を守りながら活かす仕組みづくり”が求められている。



8) 環境問題に関する自由意見

問9 環境問題に関して、普段から思っていることや感じていることがありましたら、ご自由にご記入ください。

「自然環境・生態系保護」や「災害・気候変動対策」に関する意見に加えて、「ごみ・ポイ捨て」「リサイクル・分別」など身近な問題に関する意見も多くあがっている。

自由意見の上位項目（自由意見回答者203名）

自然環境・生態系保護（32件） 里山・野生動物・自然破壊・人間活動の影響等

「熊の出没は人間の森林開発が要因。食料源確保で被害を減らすべき」
「石川県の自然を次世代へ継承する活動に参加したい」
「温暖化による異常気象で生態系が崩壊していると感じる」 ほか

災害・気候変動対策（27件） 豪雨・温暖化・護岸整備・防災意識等

「気温上昇や豪雨による被害が増えている」
「鳥や虫が減少し、気候変動の影響を感じる」
「環境問題は国全体で取り組むべき課題」 ほか

ごみ・ポイ捨て（26件） ポイ捨て・不法投棄・地域清掃・罰則強化等

「車からのゴミの投げ捨てが目立つ。罰則強化と監視を希望」
「空き缶やペットボトルのポイ捨て取り締まりを強化してほしい」
「ごみの多さが気温上昇・生態系崩壊につながっている」 ほか

環境教育・意識向上（23件） 学校教育・地域啓発・外国人向け教育等

「学校教育で環境をテーマに扱うべき」
「ゴミ出しルールを守らない人への教育と啓発を」
「子どもが自然に触れられる環境を整備してほしい」 ほか

再生可能エネルギー・省エネ（16件） 省エネ・再エネ・太陽光発電・政策支援等

「EV・太陽光の利点だけでなく、全体最適を考えるべき」
「家庭で省エネ・リサイクルを地道に続けている」
「太陽光パネル下の鳩の糞害など、新たな課題もある」 ほか

リサイクル・分別（16件） 資源循環、食品ロス、分別ルール改善等

「家庭でリサイクルや省エネを実践している」
「飲食店での食品ロスが多い」
「プラスチックなど使い捨て資源の浪費を減らすべき」 ほか

交通・車・排気ガス（14件） 車社会・排ガス・環境技術・交通政策等

「EVやソーラーパネルが必ずしも環境に良いとは思えない」
「省エネ車・住宅は高コスト。経済的支援が必要」
「タイヤ粉じんによる環境汚染が心配」 ほか

景観・緑化（11件） 街路樹・緑地の保全、公園整備、地域的美観維持等

「金沢の道路沿いの景観整備が必要」
「外国人による河川でのごみ問題、ゴミ箱設置を求む」
「街路樹の伐採が多く、植樹の推進と維持費の確保を希望」 ほか

§ 3 調査票

石川県県民意識調査

～あなたのご意見をお聞かせください～

石川県では、令和7年度末をもって、「石川県環境総合計画」の最終年を迎えることから、当該計画を改定することとしております。

本調査は、環境総合計画の改定に際して、皆様のご意見をお聞きし、参考とさせていただくためのものであり、無作為抽出により、あなたを回答者のお一人として選ばせていただきました。

お忙しい中、恐れ入りますが、本調査の趣旨にご理解いただき、アンケートにご回答賜りますようお願い申し上げます。

ご回答いただいたアンケートの結果は、統計的に処理した上で、活用することとしておりますので、個人が特定されることはございません。

なお、本調査にあたっては、石川県から株式会社都市環境マネジメント研究所に調査業務を委託しており、当該機関から調査票の発送等を行っております。

令和7年9月
石 川 県

＜回答に際しての注意点＞

- ◆ 本アンケートは、あて名のご本人がお答えください。なお、ご本人が回答困難な場合や入院中などの場合は、ご家族や周りの方が介助いただくか、あて名のご本人の意見を聞いたうえで代わりにご記入ください。

アンケートの回答方法

＜インターネットで回答する場合＞

- ◆ スマートフォンやタブレット等で右のQRコードを読み込んでいただき、回答画面にお進みください。



＜インターネットでの回答が困難な場合＞

- ◆ 直接、この調査票に濃い鉛筆又は黒ボールペンで回答を記入してください。
- ◆ お答えいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
○印の数は、それぞれの設問の指示に従ってください。
- ◆ この調査票に回答を記入後、同封の返信用封筒に入れ（切手は不要です）、
10月10日（金）までに郵便ポストにご投稿願います。

令和7年度環境に関する県民意識調査

問1 はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

ア あなたの性別は

1. 男 2. 女 3. どちらともいえない または 答えたくない

イ あなたの年齢は

1. ～20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代
5. 60歳代 6. 70歳代 7. 80歳代～

ウ あなたのお住まいは

1. 金沢市 2. 七尾市 3. 小松市 4. 輪島市 5. 珠洲市
6. 加賀市 7. 羽咋市 8. かほく市 9. 白山市 10. 能美市
11. 野々市市 12. 川北町 13. 津幡町 14. 内灘町 15. 志賀町
16. 宝達志水町 17. 中能登町 18. 穴水町 19. 能登町

エ あなたの世帯人数は

1. 1人 2. 2人 3. 3人~5人 4. 6人~

才 住まいの形態は

1. 持家 2. 借家（一戸建て） 3. 分譲マンション 4. 賃貸（アパート）
5. その他（ ）

問2 次の環境課題について、あなたが関心のあるものを選んでください。(複数選択可)

1. 地球温暖化による気候変動
2. リサイクル
3. 食品ロス
4. 不法投棄など廃棄物の不適正な処理
5. 里山・里海の手入れ不足による荒廃
6. 身近な生きものや希少な野生生物の減少や絶滅
7. 野生鳥獣による農作物などの被害
8. 外来種の増加
9. 大気汚染
10. 光化学オキシダント
11. 河川、湖沼、内湾などの水質汚濁
12. 土壌汚染や地下水汚染
13. 騒音・振動・悪臭
14. 地盤沈下
15. 環境に有害な化学物質の管理
16. 環境美化
17. 修景・景観形成
18. 開発行為による自然の減少
19. 環境産業（環境保全に役立つ産業、環境に配慮した産業）が育つこと
20. 環境教育・環境学習

- 問3 あなたは、自分が住んでいるまちの環境についてどの程度満足していますか。
ア～ケ それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

区分	質問項目	1 満足	2 どちら かとい えば 満足	3 ま あ ま あ	4 どちら かとい えば 不満足	5 不 満 足
ア	空気のきれいさ	1	2	3	4	5
イ	水のきれいさ（身近な川、湖沼、海）	1	2	3	4	5
ウ	生活環境の静かさ	1	2	3	4	5
エ	生活環境の清潔さ	1	2	3	4	5
オ	景観（都市景観、農村景観）の美しさ	1	2	3	4	5
カ	緑の豊かさ	1	2	3	4	5
キ	野生生物（植物、鳥、魚、昆虫など）の豊かさ	1	2	3	4	5
ク	自然とふれあう場や機会の多さ	1	2	3	4	5
ケ	環境のことを学ぶ場や機会の多さ	1	2	3	4	5

- 問4 あなた自身、あるいはあなたのご家庭における日常生活の中で、環境を守ることにつながる次の行動をどの程度実行していますか。
ア～タ それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。

区分	質問項目	1 いつも 実行し ている	2 ときど き実行 してい る	3 あまり 実行し ていな い	4 全く実 行して いない
ア	こまめに照明を消灯する、使わない電気製品はコンセントからプラグを抜く。	1	2	3	4
イ	外出時に、できるだけ徒歩、自転車、公共交通機関を利用する。	1	2	3	4
ウ	ふんわりアクセルやアイドリングストップなどエコドライブを心掛けている。	1	2	3	4

区 分	質 問 項 目	1 いつも 実行し ている	2 ときど き実行 してい る	3 あまり 実行し ていな い	4 全く実 行して いない
エ	歯磨き、洗面時は、水を流しっぱなしにしない。	1	2	3	4
オ	マイバッグ・マイボトルを使用するなど使い捨てプラスチック製品の使用を控える。	1	2	3	4
カ	環境に配慮した商品（省エネ製品、詰替商品、簡易包装など）を購入する。	1	2	3	4
キ	食材の有効利用やたい肥化により生ごみを減らす。	1	2	3	4
ク	食事を残さないことや、日頃から冷蔵庫等の食品を確認するなど、まだ食べることができるのに廃棄される食品（食品ロス）の削減に取り組む。	1	2	3	4
ケ	電子レンジの活用など調理方法の工夫により省エネに取り組む。	1	2	3	4
コ	野菜などは、県内で生産されたものを選ぶ。	1	2	3	4
サ	畑や家のまわりなどでの農薬等の使用を極力抑える。	1	2	3	4
シ	農山漁村の自然や文化とふれあう小旅行を楽しむ。	1	2	3	4
ス	公園、道路、海岸、河川などの清掃活動に参加する。	1	2	3	4
セ	緑化や里山保全活動などに参加する。	1	2	3	4
ソ	環境に関する講演会やセミナーに参加する。	1	2	3	4
タ	自然観察会や自然体験活動に参加する。	1	2	3	4

問5 あなたは、ふだんの生活のなかで次のことをどのように思っていますか。
 ア～ツ それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。

区 分	質 問 項 目	1 そう 思う	2 少し そう 思う	3 そう 思わ ない
ア	環境に関する講演会や自然観察会などの行事案内や広告をもっと増やすべきだ。	1	2	3

区分	質 問 項 目	1 そう 思う	2 少し そう 思う	3 そう 思わ ない
イ	環境にやさしい商品の情報提供や広告をもっと増やすべきだ。	1	2	3
ウ	自ら行っている環境保全活動のPRや、他者と情報交換できる場を設けるべきだ。	1	2	3
エ	駐車場や道路上でアイドリング(エンジンのかけっぱなし)をしている車が多い。	1	2	3
オ	空き缶、空きビン、タバコのすいがら等のポイ捨てが多い。	1	2	3
カ	商品を買うと、容器や包装が過剰なものが見られる。	1	2	3
キ	廃棄物の不法投棄は、地域ぐるみで監視すればもっと防げる。	1	2	3
ク	海洋プラスチックごみ問題を解決するには、県民一人ひとりの取組が大切だ。	1	2	3
ケ	食品ロスを削減するために、小盛メニューの導入や、少量パック販売など、飲食店や食品小売店が行う取組が増えるとよい。	1	2	3
コ	人の手が入ることが少なくなったなどの理由から、里山・里海が荒れている。	1	2	3
サ	メダカ、ホタル、ササユリなどの身近な動植物が減ってきている。	1	2	3
シ	環境に配慮した行動をすることで、どの程度効果があるのか分かるようにすべきだ。	1	2	3
ス	エコな生活によって健康になるなど、付加価値について知りたい。	1	2	3
セ	個々のライフスタイルに応じたエコ活動について知りたい。	1	2	3
ソ	豊かな環境を子供たちに引き継ぐために、多少の労力や費用負担はやむを得ない。	1	2	3
タ	学校や保育所等における環境教育を行い、地球温暖化など環境保全について正しく理解する。	1	2	3
チ	環境保全に役に立つ製品やサービスがもっとたくさんあればよい。	1	2	3
ツ	環境に関するビジネスがもっと広がるとよい。	1	2	3

問6 地球温暖化についてお聞きます。

- (1) 地球温暖化が進むと、洪水や豪雨が多発したり、熱中症や感染症が増えたりといった影響があると言われていますが、このことについてあなたはどのように思われますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 非常に危機感を持っている 2. 少し危機感を持っている
3. あまり危機感はない 4. よくわからない 5. 関心がない

- (2) あなたが、地球温暖化対策について、取り組んでいることは何ですか。

ア～サ それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。

区分	質 問 項 目	1 取り組 んでいる	2 必要だ と思う が、取り 組んで いない	3 必要だ と思わ ず、取り 組んで いない
ア	日頃の生活の中で省エネルギーの実践を心がける。	1	2	3
イ	テレビやエアコン、冷蔵庫などの家電を省エネ型のものに替える。	1	2	3
ウ	高断熱、高気密のエネルギー消費の少ないエコハウスを建てる。	1	2	3
エ	省エネにつながるリフォーム工事（断熱性能向上やエコキュートなどの高効率機器の導入）を行う。	1	2	3
オ	太陽光発電など再生可能エネルギー設備を導入する。	1	2	3
カ	自動車をハイブリッド自動車や電気自動車などの次世代自動車に替える。	1	2	3
キ	いしかわ環境フェアなど地域の環境活動やイベントに参加する。	1	2	3
ク	環境家計簿などを活用して、生活する上でのエネルギー消費量を調べる。	1	2	3
ケ	地球温暖化防止（省エネ、節電、CO2 吸収など）に資する商品を選択し購入する。	1	2	3
コ	地球温暖化防止活動に対して募金や寄付を行う。	1	2	3
サ	CO2 を吸収する森林の整備活動や、支援をする。	1	2	3

1. 言葉の意味を知っている
2. 意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
3. 聞いたこともない
- (4) 次の気候変動の影響や適応に関することについて、あなたが関心のあるものを選んでください。(複数選択可)

- (5) 政府が「2050 年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとする目標」を法律に位置付け、通過点として「2030 年度に（2013 年度と比べて）46%削減するという目標」を掲げていることについてご存じですか。あてはまるものを1つ選んでください。

- (6) あなたの現在のお住まいは、次のどれですか。あてはまるものを1つ選んでください。

- (7) 再生可能エネルギー由来の電力への切り替えを実施していますか。

- 6 -

(8) あなた現在の住まいは、次の設備を導入していますか。

ア～ク それぞれについて、最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

区分	設 備	1 すでに 導入し ている	2 今後導 入する ことが 決定し ている	3 費用負 担が大 きいの で導入 してい ない	4 効果が 実感で きない ので導 入して いない	5 特に理 由はな いが導 入して いない	6 該当し ない (借家の ため導 入でき ない等)
ア	太陽熱温水器 (太陽熱により温水をつくる)	1	2	3	4	5	6
イ	エコキュート (自然冷媒ヒートポンプ給湯器)	1	2	3	4	5	6
ウ	省エネ住宅設備 (高気密、高断熱化など)	1	2	3	4	5	6
エ	電気自動車 (EV) 充電器	1	2	3	4	5	6
オ	V2H (電気自動車の蓄電池から家に電気を送る装置)	1	2	3	4	5	6
カ	空調の全熱交換器 (室内の空気を換気しながら室温を維持できる省エネ効果の高い換気システム)	1	2	3	4	5	6

区分	設 備	1 すでに 導入し ている (全体)	2 すでに 導入し ている (一部)	3 今後導 入予定	4 未定	5 導入予 定なし	6 該当し ない (借家の ため導 入でき ない等)
キ	LED 照明 (消費電力が少ない発光ダイオード使用)	1	2	3	4	5	6
ク	省エネ住宅設備 (二重窓の導入)	1	2	3	4	5	6

問7 循環型社会の構築についてお聞きします。

- (1) 県では、ごみを削減・再利用することで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が出来る限り低減される循環型社会の実現を推進していますが、あなたは現状をどのように感じていますか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つ選んでください。

1. ごみが出ない商品やリサイクルしやすい商品が普及していない
2. リサイクルをする前に、まず、ごみの発生を減らすべきだ
3. 中古品の購入や、修理して再使用する取組が進んでいない
4. ごみや不要品を再生利用（リサイクル）する取組が進んでいない
5. まだ食べることができるのに廃棄される食品（食品ロス）が多い
6. ごみを燃やしたときの熱を有効利用するごみ発電等の導入が進んでいない
7. 出されたごみをリサイクルすることや、埋め立てられるごみの量を減らすことができるごみ処理施設の整備が進んでいない
8. ごみの不法投棄が厳しく取り締まられていない
9. その他（ ）

- (2) (1)の大きな理由は何だと思えますか。次の中から、あなたがそのように思う理由を3つ選んでください。

1. ごみ処理に関する情報（発生量・処分量・処分費用など）の提供が不十分
2. 循環型社会に関する情報提供や広報などが不十分
3. 循環型社会に関する教育が進んでいない
4. 工場が排出するごみの減量化への取組やリサイクル製品の開発への支援が不十分
5. 再使用の推進やリサイクル品の使用を促進するための支援が不十分
6. ごみのリサイクルなどの廃棄物処理事業者やリサイクル事業者への指導育成への支援が不十分
7. ごみ処理施設の必要性などに対する理解が進んでいない
8. 法律や県条例等による規制や取り締まりが緩い
9. その他（ ）

問8 里山里海の利用保全を中心とした生物多様性の保全についてお聞きします。

- (1) あなたは「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 言葉の意味を知っている
2. 意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
3. 聞いたこともない

- (2) 里山里海や生物多様性の現状の課題や問題点として、どのようなことがあると考えますか。次の中から、あてはまるものを選んでください。（複数選択可）

1. 里山里海での人口減少や集落機能が低下していること
 2. 耕作放棄地、手入れ不足林や放棄竹林など、人の手が入らない里山が増加していること
 3. 採算性の低下等により、里山里海地域の主たる産業である農林水産業が衰退していること
- 注）次ページに続きます

4. 過疎・高齢化が進行する中、里山里海の保全に取り組む担い手が不足していること
5. 地球温暖化などの地球環境の変化によって、生物多様性が劣化するおそれがあること
6. メダカなど身近な生きものの減少や希少な野生生物が絶滅するおそれがあること
7. クマやイノシシなどの野生獣が、人里や市街地へ出没することや、農林業被害を及ぼすこと
8. ブラックバスやアメリカザリガニなど、在来種の生息等を脅かす外来種が増加していること
9. 里山里海や生物多様性に関する知識・情報が不足していること
10. 自然の中に出かけ、生きものに親しみ・ふれあう機会が少ないこと
11. 里山里海及び生物多様性の保全の取組が広がらないこと
12. 里山里海及び生物多様性の保全に関する教育が進んでいないこと

(3) (2)の課題や問題点の解決のため、今後、どのような対策が必要だと考えますか。

次の中から、あてはまるものを選んでください。(複数選択可)

1. 里山里海の資源を掘り起こし、持続可能な形で利活用した生業（働く場）の創出
2. 地域が主体となった、里山里海の魅力の再発見や新たな価値の創出と活性化
3. 都市住民や企業、NPOなど多くの人たちが里山里海の保全活動に参加しやすい環境づくり
4. 環境保全型農業の推進など、地域の生きものに配慮した取組
5. 里山里海の利用保全活動の担い手となる人材の育成
6. 希少な野生生物の保護対策の推進
7. 鳥獣害を軽減するための適切な捕獲や被害防止対策
8. 外来種防除対策の推進
9. 里山里海や生物多様性の保全に向けた普及啓発
10. 自然にふれあい、親しむ機会や場の提供
11. 専門家や大学などとの連携による生物多様性の保全に必要な調査・研究の強化
12. 国際組織への参加による情報収集や本県の取組の発信
13. 里山里海及び生物多様性の保全に関する教育の充実・強化

問9 環境問題に関して、普段から思っていることや感じていることがありましたら、ご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ありがとうございました。

同封の返信封筒にて、10月10日（金）までにご投函ください。(切手は不要です)

令和 7 年度

環境に関する県民意識調査

石川県生活環境部環境政策課

〒920-8580 金沢市鞍月 1 丁目 1 番地
TEL 0 7 6 - 2 2 5 - 1 4 6 3